北海学園大学 学報

北海学園大学学報
発行・編集　北海学園大学
札幌市豊平区旭町4丁目1番40号　〒062-8605
☎011(841)1161　FAX 011(824)3141
https://www.hgu.jp/
gakuho@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp
発行日（6月1日、9月1日、12月1日、3月15日）
購読料　1部80円　年間320円
制作・印刷　株式会社人力社
北海学園大学 学報 バックナンバー

主な記事

法務研究科 退職教員からメッセージ――2面
北海学園学術研究助成事業報告㉙ 人文学部 渡部あさみ教授 3面
令和6年度 副学長・学部長・研究科長・機関長 4面
研究室を訪ねて⑮ 経営学部 金倫廷准教授――5面
新学部長・研究科長に聞く！――6面
学園人脈記 第27回 YouTuber 山本大希氏 7面
キャリア支援センターインフォメーション 2024年就職状況 8面

令和6年度

入学式挙行

令和6年度度入学式が4月2日、北海道立総合体育センター「北海きたえーる」にて執り行われた。今年度は、学部学生1部1514名、2部537名、大学院博士（後期）課程1名、修士課程11名、合わせて2063名の新入生を迎えた。昨年までは新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から規模を縮小していたが、5年ぶりに一般来場者を迎えて従来通りに実施された。

北海きたえーるで行われた入学式

河﨑秋子氏から祝辞

来賓からの祝辞として、本学経済学部を卒業した作家の河﨑秋子氏が登壇した。河﨑氏は2002年に本学を卒業、今年一月に小説『ともぐい』で第170回直木賞を受賞した。河﨑氏は自身の学生時代と大きく変わっているものとしてAIを挙げ、AIの文章技術は非常に興味深いとしながらも一人が生身から搾り出した文章から少しずつかけ離れている印象」と見解を述べた。新入生に対して「我々の世代よりもはるかに豊かな視点と、新たな技術との共存方法を見出していかれると思う。卒業後、その獲得した視点や技術を、社会の中で我々にご教示くださるものと期待している」と激励した。

多くの保護者の方々をはじめ、ご来賓、教職員が見守るなか、新入生は緊張と期待が入り混じった面持ちで式典に臨んでいた。

祝辞を述べた河﨑秋子氏

森下宏美学長 入学式式辞（要旨）

「学問する心と力」そして「問いを共有する友」を

新入生のみなさん、北海学園大学へのご入学、おめでとうございます。教職員一同、心より歓迎いたします。

これからの大学生活を通じて、何よりもみなさんに得てほしいのは、「学問する心と力」、そして「問いを共有する友」です。

世界や社会、人間に関して疑問に思うことは数多くありますが、それらをひとつの「問い」にまで高めてくれるのが学問です。どのようにしたら答えにたどり着くことができるのか、そのための方法を見出し、答えに向かって研究せずにはいられなくなったとき、それは単なる疑問から「問い」に変わります。みなさんには、大学での学びを通じて、自分なりの「問い」を持ち、自分なりの答えを導く研究の営みを、大いに経験してほしいと思っています。そのさいに大切なことは、客観的な理由や根拠を示し、他者の理解を得られるように自分の答えを導くことです。そのようにして導かれた答えは、もはや、あなただけのものではなく、人々に共有される知恵となり、新しい可能性を切り拓く社会の力となるからです。

そしてもう一つは、「問いを共有する友」です。私たちは人生のいろいろな段階でさまざまな友人と出会いますが、大学時代においてこそ出会いたいのは「問いを共有する友」です。自分と同じ「問い」に取り組む仲間、あるいは、それぞれの「問い」に向き合う努力に共感し合える仲間です。

いま私たちの社会は、少子・高齢化、人口減少、地球温暖化の進行に直面しています。また、ICTやAIの発達、グローバル化の進展は、大きな利便をもたらす一方で、例えば、生成AIの発達による情報の性質の変化など、新たな問題をも生んでいます。このような現実に対処し、よりよい社会を築くためには、新しい知恵の創造と、それを活かす人々の共同が必要です。そこに、学問の果たす大きな役割があります。学問は特別な人だけがやるものではありません。みなさんには、是非、学問をも生涯の友としていただきたいと思います。

本学は、「常に真理を探究する構えと専門の学知に支えられた高い道義性と知性を兼ね備え、自己のキャリアの持続的発展と他者との自由な連帯を通し、未来を切り拓くパイオニアの育成に努める」ことを教育の目標としています。本学での学びが、みなさんのよき人生、そしてよりよい社会の実現につながることを願い、祝辞といたします。

令和6年度　入学者数

（単位／人）

学部		学科	入学者
経済		1部	348
		2部	139
経営	1部	経営学科	200
		経営情報学科	161
	2部	経営学科	122
法		1部	300
		2部	200
人文	1部	日本文化学科	134
		英米文化学科	104
	2部	日本文化学科	48
		英米文化学科	28
工		社会環境工学科	52
		建築学科	70
		電子情報工学科	82
		生命工学科	63

	研究科		入学者
大学院	経済学研究科	（博士課程）	1
		（修士課程）	2
	経営学研究科	（博士課程）	－
		（修士課程）	－
	法学研究科	（博士課程）	－
		（修士課程）	2
	文学研究科	（博士課程）	－
		（修士課程）	3
	工学研究科	（博士課程）	－
		（修士課程）	4

1部　計	1,514
2部　計	537
大学　計	2,051
大学院　計	12
大学・大学院　計	2,063

法務研究科 最後の修了生

平成17年4月に開設された法務研究科（法科大学院）が最後の修了生を送り、令和6年3月31日をもって廃止となった。法務研究科は、理論と実務の架橋を意識した、質の高い法曹養成に特化した教育の場として取り組んできた。

共に泣き共に笑った 法科大学院生にエールを

法務研究科長・教授　丸山（まるやま）治（おさむ）

2005年開設。2008年一期生19名修了、初の司法試験受験。2024年最後の学生が修了（総計156名）。2019年（修了後5年）までの修了者について、司法試験の累積合格率（ある年に法科大学院を修了し司法試験を受験した受験者が最終的に合格した割合）の累計は、既修29名・合格14名（48・3％）、未修122名・合格26名（21・3％）、総計151名・合格40名（26・5％。受験者数母数の合格率28・8％。全国累積合格率52％）。

構成員には経験豊富な元裁判官（支援なしには開設困難）、弁護士教員（札幌弁護士会の協力）が加わり、理論と実務の架橋を目指す法科大学院教育を可能とした。条文と理論を実務に結び付けて段階的に学ぶカリキュラムを導入するだけでなく、理論科目の内容・方法にも工夫が必要となる。

理論科目の単位数は、学部同一科目の半分（法改正により増加）、授業の準備に工夫を凝らす。自学自修用レジュメを授業の一定期間前までに配布。実務への架橋を念頭におき毎回判例評釈を寄稿すると同様の準備。空き時間・夏休み等を利用した補習。起案用練習問題の作成と添削。全国でも珍しい夜間の長期履修課程を設置し、終了時間は21時30分。質問への応答後に帰宅すると寝るだけという日も。学生の協力のもと苦労を重ねた結果、完成年度には教育手法確立。

実務科目の中心となる、弁護士教員の指導のもと学生が行う法律相談では、札幌はもちろん、北見での出張相談にも、多くの相談が寄せられた。また、学生が法曹三者等の役に分かれ、事件の資料を材料に行う刑事模擬裁判では、事前に学修した授業をもとに、土曜日の午前中から夕方までの時間を利用して一気に公判を行う。証人尋問は迫力満点。

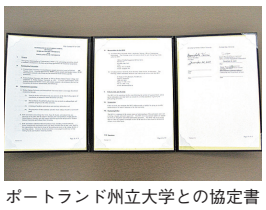
理論と実務の架橋を模索

2016年、将来構想委員会は研究科不同意のまま2018年度以降の募集停止を決定。議論すべき課題は顧みられず、発展的解消策も頓挫、廃止の理由も不明。広く実務への応用力を有する人材育成（法曹三者に限定しない点で中教審と対立）、夜間履修の機会提供、地域への法的サービス提供を目指した法科大学院は、結局、バッシングによる志願者激減という荒波を乗り越えることはできなかった。必要だが維持するだけの体力がなかったということか。全国74校あった法科大学院も、現在の募集継続校は34校。この間、意見書の趣旨と異なる改革により、法科大学院の意義に疑念も生じる。経済的負担のない予備試験に注目すべき時が来たのかもしれない。

アメリカ・ポートランド州立大学と本学

交流協定締結

本学は、2024年2月28日にアメリカ・ポートランド州立大学と交流協定を締結しました。ポートランド州立大学は、第二次世界大戦から復員した兵士の職業訓練校として設立され、1964年に4年制大学として認可された総合大学です。この協定は、双方のニーズに基づいて、教職員や学生の交流、学術出版物および学術情報の共有といった研究・教育活動の交流を可能とするものです。

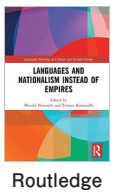

ポートランド州立大学との協定書

Global Leadership Programに関する覚書

アメリカ・バレンシア大学地区理事会、全国大学生活協同組合連合会と本学

Global Leadership Programに関する覚書を締結

本学は、2023年11月16日にアメリカ・バレンシア大学地区理事会、全国大学生活協同組合連合会とGlobal Leadership Programに関する覚書を締結しました。バレンシア大学は、世界60か国から500名以上の留学生が集まるコミュニティカレッジです。この覚書は、バレンシアから提供される最大6か月間の正規課程の講義および関連の学術研修プログラムへの参加を可能とするものです。

Languages and Nationalism Instead of Empires
野町素己，Tomasz Kamusella 編
清沢紫織（人文学部講師）他共著
中欧地域の様々な国民国家において、言語がいかにして人間集団によって創造され、正当化され、維持され、破壊されるのか。そのメカニズムについて、社会言語学的な観点から考察する論文集。

£135.00
Routledge

自治体政策学
武藤博己 監修／南島和久・堀内匠（法学部准教授）編著
「政策」を切り口として自治体を論じ、具体的な個別政策を取り上げながら、市民視点で自治体政策とは何かを詳解。政策の蓄積や改革なども踏まえ、シビル・ミニマムを前提とした自治体のあり方を展望する。

定価 三、五二〇円（税込）
法律文化社

「廃棄物」概念の研究 ―解釈論―
福士明（法学部教授）著
本書は「廃棄物」という概念について、行政実務・学説および判例によって提示された各解釈論の展開過程を整序・分析し、廃棄物処理法の前身である清掃法と基本法たる循環型社会形成推進基本法を踏まえて、その新たな方向性を提示する。

定価 四、二九〇円（税込）
北海学園大学出版会

コロナ化した世界　COVID-19は政治を変えたのか
日本大学法学部政経研究所 企画／岩崎正洋 編著／岩坂将充（法学部教授）他共著
4年間のコロナ禍を経験し、我々は何を学んだのか。本書は2019年末から2023年夏までの期間を対象に、世界各国および日本国内の政治的な動向についての総括を試みる。

定価 四、四〇〇円（税込）
勁草書房

デンマークを知るための70章【第2版】
村井誠人 編著／高橋美野梨（法学部准教授）他共著
余裕をもって仕事と生活を楽しむデンマークの人々のライフスタイルと日本はどこが異なるのか。旅行ガイドでは分からないデンマークの真の姿がここにある。15年ぶりの改訂版。

定価 二、二〇〇円（税込）
明石書店

実践の論理を描く　相互行為のなかの知識・身体・こころ
小宮友根・黒嶋智美 編／五十嵐素子（法学部教授）他共著
人が知識、身体、こころを持つという経験は、相互行為の中でいかに理解可能にされているのか。社会学、言語学、哲学といったさまざまな執筆者たちが、実践の論理の分析から描き出す。

定価 四、一八〇円（税込）
勁草書房

どうするALPS（アルプス）処理水？　科学と社会の両面からの提言
岩井孝・大森真・児玉一八・小松理虔・鈴木達治郎・野口邦和・濱田武士（経済学部教授）・半杭真一 編著
福島第一原発廃炉に伴うALPS処理水問題を解決するために、さまざまな分野の執筆者が科学・技術的、社会的な側面から分析し、どう解決していけばいいかを提案する。

定価 一、九八〇円（税込）
あけび書房

法務研究科　退職教員からメッセージ

法務研究科教授
大西 有二（おおにし ゆうじ）
楽しく充実した学園大生活

在籍31年、記憶に残る多くの楽しい出会い出来事。教育活動では、レジュメ集発行、講義で質問カードを配布しコメント付きで印刷返却したところ、他学部非履修（！）の愛読者登場。ゼミ（特にⅡ部）は世代を超えた出会いの場、天売・ニセコ合宿。大学院では行政法学方法論、消防法、税法など多様なテーマと格闘。Dr・取得者は首都圏で大学教授。仲間とワイワイ完成させた教科書。社会貢献では、貴重な学外・議会改革委員拝命。研究活動では、学会報告、7日から1年4ヶ月多数回お認め頂いたドイツ留学・報告出張、ドイツ人教授による本学での報告二回を含む真の（！）日独交流「友人執筆の『ドイツ行政法の基礎』の単独翻訳出版が最高最大の「仕事」。海外へ先陣を切られた熊本信夫先生、サポート頂いた法人・教授会・職員各位には感謝しかない。皆さん、ありがとう。

【略歴】昭和60年北海道大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学、平成元年法学博士（北海道大学）、平成2年北海道情報大学専任講師、平成5年本学法学部助教授、平成6年同教授（行政法Ⅱなど担当）、大学院法学研究科修士課程担当、平成11年同博士（後期）課程担当（行政法特殊研究・税法など担当）、平成26年大学院法務研究科教授専門職学位課程担当（行政法Ⅰ・都市法など担当）、令和3年法務研究科長（令和5年3月まで）

【主な著書・論文・発表等】
著書：編著『設例で学ぶ　行政法の基礎』、論文：「公法上の建築隣人訴訟―西ドイツの行政判例における「権利」「権利毀損」および「違法事由」」、「NPMと法・行政法―「成果志向」による行政統制手法の豊富化？―」など

法務研究科教授
岡田 信弘（おかだ のぶひろ）
研究教育環境の着実な充実を！

北海道大学を定年退職後、2016年から9年間お世話になりました。この間、前半はもっぱら法務研究科の憲法関連科目を、後半はそれに加えて学部や一般教育の演習と授業を担当しました。授業を通じて学生と日々接することは、私のような高齢教育者にとって頭を活性化する上で大変有益でした。学生に感謝するとともに、そうした機会を与えてくれた大学に対し心より謝意を表します。もう一つお礼を申し上げなければならないことがあります。それは、科学研究費に基づく研究環境の維持をサポートしてくれたことです。それによって、北大在職中から行ってきたフランス人研究者との共同研究を継続することができました。研究と教育の両輪が円滑に回転するための環境を着実に整えることをお願いしてお別れのメッセージとします。

【略歴】昭和51年北海道大学大学院法学研究科公法専攻修士課程修了（法学修士）、昭和54年北海道大学大学院法学研究科公法専攻博士後期課程単位取得退学、昭和54年北海道大学法学部助手、昭和55年明治学院大学法学部専任講師、昭和58年同助教授、平成4年同教授、平成8年北海道大学法学部教授、平成12年大学院法学研究科教授、平成16年法学部長・大学院法学研究科長（平成18年まで）、平成27年北海道大学大学院法学研究科特任教授、平成28年本学法学部教授（公法応用1など担当）、大学院法務研究科教授専門職学位課程担当（憲法Ⅰ）など担当）、平成29年同博士（後期）課程担当（憲法特殊研究1など担当）

【主な著書・論文・発表等】
著書：『事例から学ぶ日本国憲法』、共著『三院制の比較研究：英・仏・独・伊と日本の二院制』、論文：「議院内閣制と政官関係―「政官関係論不在の憲法学」克服の一つの試み」

法務研究科教授
稗貫 俊文（ひえぬき としふみ）
関係者の皆様に感謝

日本のロースクールは、「事前の規制から事後の公正な紛争解決へ」として発足しました。しかし、その数は年々減少し、改革を支える力になりませんでした。また多くの改革は社会的弱者に冷たい規制緩和に過ぎませんでした。

しかし、全国で法科大学院を修了した若者の多くが、そして北海学園大学大学院の法務研究科を修了した若者の多くが、法曹にならなかった人も含めて、格差の広がる社会の様々な場所で活躍されていると思います。

退職にあたり、司法試験の選択科目である「経済法」と「知的財産法」の講義を履修し、熱心に質問や議論をぶつけてくれた皆さんのご活躍を期待しています。そして、ロースクールの教壇にたつ機会を与えて下さった北海学園大学の関係者の皆様に感謝いたします。

【略歴】昭和50年北海道大学大学院法学研究科修士課程修了、昭和53年同博士課程単位取得退学、昭和53年同法学部助手、昭和56年法学博士（北海道大学）、昭和61年金沢大学法学部助教授、昭和62年同教授、平成2年北海道大学法学部教授、平成12年同大学院法学研究科教授、平成16年同大法科大学院教授、平成22年本学大学院法務研究科教授（経済法、知的財産法担当）

【主な著書・論文・発表等】
著書：『知的財産法と独占禁止法』、『市場・知的財産・競争法』、共著『競争法の東アジア共同市場』

法務研究科教授
松久 三四彦（まつひさ みよひこ）
恵まれた学園生活に感謝

北海学園大学では誠に恵まれた環境で勤めさせていただき、心より感謝申し上げます。事務の皆さん、研究室の清掃をしてくださった方、先生方、多くの方々のお世話になり快適に過ごさせていただきました。法務研究科の学生さんには仕事をしながら勉強されている方が多く、夜間の講義を受けるだけでも大変ななか、遅くまで、また、土日にも自習室に詰めて勉強されている姿には、克己心の強さに大きな感銘と刺激を受けました。法学部では、整った大講義室での講義の気持ちよさ、演習での個性ある学生さんとの出会いも懐かしい思い出です。法務研究科廃止後について、有志の会合で、継続教育の時代を見据えて、法的管理に関係する職務担当者のスキルアップと専門的能力の見える化（修士号付与）を図る通信制夜間大学院構想などが語られながら、コロナのため自然解散になったことも思い出されます。本学が、これからも時代の要請に応え、私学の雄として輩きをなしていく姿が目に浮かびます。本学および皆様方のますますのご発展を心より祈念しております。

【略歴】昭和54年北海道大学大学院法学研究科修士課程修了、昭和56年同研究科博士後期課程退学、平成22年博士（法学）（北海道大学）、昭和56年小樽商科大学短期大学部講師、昭和58年同助教授、昭和60年金沢大学法学部助教授、平成3年同教授、平成6年北海道大学法学研究科教授（大学院重点化に伴う配置替え）、平成22年同大学法学研究科長・法学部長・評議員・総長選公会議委員・経営協議会委員、平成27年本学大学院法務研究科教授（専門職学位課程担当、民法Ⅰなど担当）、平成29年法務研究科長（令和3年まで）

【主な著書・論文・発表等】
著書：単書『時効制度の構造と解釈』、『時効判例の研究』、共著『民法Ⅰ―総則（第4版）』

法務研究科教授
丸山 治（まるやま おさむ）
出会いに感謝

「鬼の丸山」の異名をとった。褒め言葉と受け取る。そのお陰か、ゼミには、少人数ながらも個性豊かな学生たちが集い、学生に恵まれた。法科大学院では学生との真剣勝負。教育の中で初めて刑法という法律を理解した気がする。学生に感謝。さらに経験豊かな実務家の先生方との出会いは、教育・研究に新たな視点を発見する契機となった。岳友会（2部山岳部）顧問40年余。活動にお邪魔し迷惑をかけたが、暖かく迎えてくれた。沢登り・岩登り・冬山の経験。海外登山ムスターグ・アタ（ウイグル自治区・約7,500m）のベースキャンプ（約4,000m）まで連れて行ってもらった。人間味豊かな岳友会に感謝。大学は退くが、岳友会には居座るつもりでいる。貴重な出会いの場として大学に感謝。迷惑をかけたにもかかわらず支えていただいた事務方に感謝。

【略歴】昭和50年北海道大学大学院法学研究科公法課程刑事法専攻修士課程修了（法学修士）、昭和54年北海道大学大学院法学研究科公法課程刑事法専攻博士課程単位取得退学、昭和54年北海道大学法学部助手、昭和56年本学法学部講師、昭和58年同助教授、平成2年同教授、大学院法学研究科教授修士課程担当、平成5年入試部長（平成10年まで）、平成10年大学院法学研究科法律学専攻博士（後期）課程担当、平成14年法学部長（平成17年まで）、平成17年大学院法務研究科教授専門職学位課程担当（刑法Ⅰなど担当）、平成20年法務研究科長（平成25年まで）、令和5年法務研究科長

法務研究科教授
門馬 明子（もんま あきこ）
学生の成長を喜びとして

私は2015年度から本学法科大学院の授業に携わり、2019年度から専任教員に就きました。私自身、法科大学院の第1期生であり、弁護士になることに大きな夢と希望を持つ学生でした。法曹志望の学生を教える側になってからは、「これからの法曹に何を伝えるべきか」、また「どういうふうに教えればわかりやすいか」を考える日々でした。法曹（弁護士）としてあるべき姿を示すために、自らも鍛錬の日々だったと思います。

本学法科大学院は社会人学生を広く受け入れており、多様性が求められる法曹界にとって貴重な存在でした。そのような本学で教壇に立ち、あるべき法曹像を語り伝える機会を得たこと、そして学生が成長する姿を目にできたことは、今でも私の大きな喜びです。

2024年度は本学の非常勤講師として法学部生に教える場をいただいております。これまで送り出した学生たちの自己実現を願いつつ、今後も学生たちに、社会における法制度の重要性と、法律とは人が人のことを想って作った、本当は温かみのある制度であることを伝えていきたいと思います。

【略歴】平成14年慶應義塾大学大学院法学研究科前期博士課程公法学専攻修了、平成19年成蹊大学大学院法務研究科専門職学位課程法務専攻修了（法務博士（専門職））、平成20年最高裁判所司法修習生、平成21年弁護士登録（札幌弁護士会）、平成31年本学法学部教授、大学院法務研究科教授専門職学位課程担当（民事法総合演習など担当）

【主な社会活動】
日本弁護士連合会法科大学院センター副委員長、札幌弁護士会法科大学院支援委員会委員

法務研究科教授
矢吹 徹雄（やぶき てつお）
退職にあたって

私は、平成17年4月大学院法務研究科が開設されるとともに本学に就任し、本年3月末をもって法務研究科が廃止されるに伴い退任することとなりました。学生の頃に医学部教授は医師資格を有し、治療もできるのに法学部では学問と実務が分離していることに疑問を持ちました。それで、弁護士登録をした後、弁護士実務をしながら大学院に通学し、終了後、弁護士実務をしながら北星学園大学経済学部で教えていました。法科大学院ができるときに本学から話がありこちらに来ました。法科大学院は司法試験がすぐ後ろに控えているので、本当の意味での実務と研究の融合ができているかは疑問ですが、本学の院生の皆さんには熱心に法律の議論に参加していただき、大変有意義な時を過ごすことができました。

法科大学院の廃止により本学から司法試験合格者を出すことはなくなりますが、本学で学んでいる学生が他の大学の法科大学院に進学し、あるいは、予備試験の道を通って司法試験に合格し法律実務家になることを期待しております。

【略歴】昭和51年北海道大学大学院法学研究科修士課程修了（法学修士）、昭和53年北星学園大学専任講師、昭和58年同助教授、平成元年同教授、平成17年本学大学院法務研究科教授専門職学位課程担当、平成25年法務研究科長（平成29年まで）、平成29年本学法学部教授、大学院法務研究科教授専門職学位課程担当（民事訴訟法Ⅰなど担当）

【主な著書・論文・発表等】
論文：「賃貸借契約と破産」、「少額訴訟の制度趣旨・目的」、「国際的な重複訴訟に関する一考察」

法務研究科教授
矢村 宏（やむら ひろし）
人に教えることは自分が学ぶこと

裁判官を定年退官後、縁あって本学法科大学院の刑事法担当専任教員として奉職させていただきました。以来11年間の勤続でした。この間、先輩同僚教員の方々、事務局の職員各位その他関係者の皆様に恵まれ、居心地よく、充実した教員生活を送らせていただき、感謝に堪えません。有難うございました。

よく言われることですが、人に教えることは自分が学ぶことだとつくづく思います。法曹を目指す学生諸君の資質と能力をできる限り伸ばそうと考え、慣れない授業準備を重ねてきましたが、それは取りも直さず、実務に慣れた刑事手続の理論的裏付けを改めて基礎から学び直すことを自分に課すことに外なりませんでした。そういう面では、教えた学生諸君に対しても感謝しなければいけません。

翻って、私が学生諸君のために何事かを成しえたかと問われれば、内心忸怩たるものがない訳ではありません。勿論、出来る限りの努力をしたことに偽りはありませんが…。とにかく、自分なりに精一杯やりました。その点で悔いはありません。

【略歴】昭和46年東京大学法学部卒業、昭和47年司法修習生、昭和49年から平成24年まで裁判官として、東京、札幌、大阪、釧路、横浜、川崎、函館の裁判所などで勤務、平成25年本学法務研究科教授専門職学位課程担当

【主な著書・論文・発表等】
著書：共著『新実例刑事訴訟Ⅱ』、『大コメンタール刑法第13巻』

法務研究科教授
吉田 康紀（よしだ やすのり）
幅広い教養を！

3年前の2021年4月から3年間、法科大学院と法学部で講義を担当し、とても貴重で充実した経験をさせて頂きました。大学関係者、学生の皆様方には心より感謝申し上げます。

私の学生時代を振り返りますと、文科系の勉強が全般的に手薄でしたが、弁護士になるために本格的に法律を学び、その後は、政治、経済、歴史、宗教などにも興味をもつようになり、趣味程度ではありますが幅広く勉強するようになりました。興味のある分野だけでなく、最初は面白くなさそうと思う分野であっても、様々な分野に是非食らいついてみて欲しいです。勉強してみると、どの分野も奥が深く、面白いと思うことが沢山あります。幅広い教養を身に着けることは、将来の役に立つだけでなく、人生をより充実したものにしてくれると思います。学生の皆様の輝かしい未来をお祈りしています。

【略歴】平成11年東京大学医学部健康科学看護学科卒業（学士（保健学））、平成17年中川博之法律事務所弁護士、平成24年吉田康紀法律事務所弁護士、平成25年弁護士法人吉田康紀法律事務所代表弁護士、令和3年本学法学部教授、大学院法務研究科教授専門職学位課程担当（民事裁判実務など担当）

【主な社会活動】
札幌弁護士会　刑事弁護センター運営委員会副委員長、日本弁護士連合会取調べの可視化本部委員

名誉教授の称号授与

本年3月31日付で退職された田村卓哉先生（元経営学部教授）、佐藤克廣先生（元法学部教授）、鈴木美佐子先生（元法学部教授）、大谷通順先生（元人文学部教授）、堂柿栄輔先生（元工学部教授）、高橋伸幸先生（元工学部教授）、魚住純先生（元工学部教授）、丸山治先生（元法務研究科教授）、大西有二先生（元法務研究科教授）、矢吹徹雄先生（元法務研究科教授）の永年にわたる教育研究、大学運営、社会活動の功績に対し3月30日、本学第三会議室で、名誉教授の称号が森下宏美学長より授与された。

◆　◆

▽**田村 卓哉（たむら たくや） 名誉教授**

【略歴】昭和58年北海道大学大学院教育学研究科修士課程修了（教育学修士）、昭和62年北海道大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学、昭和62年北見工業大学工学部講師、平成2年同助教授、平成15年本学経営学部助教授、平成16年経営学研究科修士課程担当（心的障害マネジメント特殊講義など担当）、平成19年本学経営学部教授（心的情報処理論など担当）、平成28年キャリア支援センター長（令和2年3月まで）

【主な著書・論文・発表等】
著書：分担執筆『社会でいきる心理学第4章』、論文：「記憶の精神生理学：新たな応用可能性に着目して」、「偶発記憶における虚再認に対する方向づけ課題の効果―風景写真を用いた予備的検討―」

◆　◆

▽**佐藤（さとう） 克廣（かつひろ） 名誉教授**

【略歴】1978年中央大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程修了（法学修士）、1981年中央大学大学院法学研究科政治学専攻博士後期課程単位修得満期退学、1981年本学法学部講師、1986年同助教授、1994年同教授（行政学など担当）、法学研究科修士課程担当（行政学特論など担当）、1999年同博士課程担当（行政学特殊研究など担当）、2015年法学研究科長（2018年3月まで）

【主な著書・論文・発表等】
著書：「自治と参加―アメリカの事例から」等、論文：「アメリカ合衆国の広域地方政府―オレゴン州メトロの組織と機能」、「消えかかる）道州制特区制度」等

◆　◆

▽**鈴木（すずき） 美佐子（みさこ） 名誉教授**

【略歴】昭和63年お茶の水女子大学大学院人文科学研究科哲学専攻修了（文学修士）、平成4年お茶の水女子大学大学院人間文化研究科比較文化学専攻単位修得退学、平成4年東京工業大学工学部助手、平成8年同大学院社会理工学研究科助手、平成10年本学法学部助教授、平成17年同教授（論理学など担当）、平成28年～令和元年度学生部長、令和3～4年度副学長、令和4～5年度教務センター長

【主な著書・論文・発表等】
著書：「論理的思考の技法Ⅰ～「ならば」をめぐって～」第2版、『論理的思考の技法Ⅱ～三段論法と誤謬～』、論文：「行為文の推論構造について―柏端論文「行為と道具」およびディヴィドソン型分析をめぐって―」（共著）、「信念のパラドクス―自己欺瞞について」、「出来事存在論について」

◆　◆

▽**大谷（おおたに） 通順（みちより） 名誉教授**

【略歴】昭和57年北海道大学大学院文学研究科修士課程中国文学専攻修了（文学修士）、昭和57年9月中華人民共和国北京師範大学中文系留学（昭和59年7月まで）、昭和60年北海道大学大学院文学研究科博士課程中国文学専攻中退、昭和60年株式会社ホビージャパン企画部（昭和61年3月まで）、昭和61年北海道大学文学部文部教官助手、平成元年本学教養部講師、平成4年同助教授、平成9年同教授、平成10年本学人文学部教授（中国文学Ⅱなど担当）、平成18年大学院文学研究科教授（比較文学特殊講義Ⅱなど担当）、平成29年図書館長（令和4年3月まで）

【主な著書・論文・発表等】
著書：『麻雀の誕生』、翻訳：『天安門をつくりなおす：政治空間としての天安門広場』、論文：「元雑劇所描寫的闘撲風俗―擲錢賭博的文化含義」

◆　◆

▽**堂柿（どうがき） 栄輔（えいすけ） 名誉教授**

【略歴】昭和53年北海道大学工学研究科土木工学専攻修了（工学修士）、平成5年博士（工学）（北海道大学）、昭和53年北海道土木部行政職技術吏員、昭和57年本学工学部土木工学科講師、昭和62年同助教授、平成3年修士課程担当（交通計画学特論など担当）、平成5年同教授、平成7年博士（後期）課程担当（都市計画特別講義など担当）、平成17年本学工学部社会環境工学科教授（計画数理など担当）

【主な著書・論文・発表等】
著書：共著『交通システム工学』、論文：「都市部街路のアクセス機能に関する調査研究」、共著「時間制限駐車区間での駐車行動に関する都市間比較」

◆　◆

▽**魚住（うおずみ） 純（じゅん） 名誉教授**

【略歴】昭和53年北海道大学大学院工学研究科修士課程電子工学専攻修了、昭和56年北海道大学大学院工学研究科博士後期課程電子工学専攻修了（工学博士）、昭和56年農林水産省食品総合研究所農林水産技官、昭和61年北海道大学応用電気研究所光システム工学部門助手、平成元年同助教授、平成4年北海道大学電子科学研究所助教授、平成11年本学工学部電子情報工学科教授（計算機工学Ⅰなど担当）、修士課程・博士（後期）課程担当（光システム工学特別講義Ⅰなど担当）、平成18年入試部長（平成22年3月まで）、平成30年工学部長（令和3年3月まで）、令和3年副学長（令和5年3月まで）

【主な著書・論文・発表等】
論文：「Probing into randomness with light and statistics」、「Phase-controlled fractional derivatives for near infrared spectral processing」、共著「Two-wavelength digital holographic microscopy using speckle illuminations」

◆　◆

▽**高橋（たかはし） 伸幸（のぶゆき） 名誉教授**

【略歴】昭和57年北海道大学大学院環境科学研究科博士前期課程環境構造学専攻修了、昭和63年北海道大学大学院環境科学研究科博士後期課程環境構造学専攻修了（学術博士）、昭和63年日本学術振興会特別研究員、平成2年本学教養部講師、平成3年同助教授、平成8年同教授、平成10年本学工学部社会環境工学科教授、平成24年本学工学部生命工学科教授（地球科学Ⅰなど担当）

【主な著書・論文・発表等】
著書：共著『概説　地球科学』、『アンデス自然学』、論文：「大雪山中央部、高根ヶ原周辺の高山帯環境」

◆　◆

▽**丸山（まるやま） 治（おさむ） 名誉教授**
同上

◆　◆

▽**大西（おおにし） 有二（ゆうじ） 名誉教授**
同上

◆　◆

▽**矢吹（やぶき） 徹雄（てつお） 名誉教授**
同上

名誉教授称号記授与式にて。前列左から大谷通順名誉教授、高橋伸幸名誉教授、堂柿栄輔名誉教授、魚住純名誉教授、森下宏美学長、丸山治名誉教授、大西有二名誉教授、矢吹徹雄名誉教授、田村卓哉名誉教授。後列左から石井健教授、天笠道裕教授、館田晶子法学部長、小松かおり人文学部長、元木邦俊教授、佐藤淳副学長。

北海学園学術研究助成事業報告㉙

研究課題

現代アメリカ女性文学の研究 Reyna Grande の創作とアクティヴィズム

人文学部教授　渡部（わたなべ） あさみ

札幌市出身。北海道大学文学部（社会システム科学講座）卒業。米国メリーランド大学大学院アメリカ研究科修士課程修了。北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。札幌大学准教授などを経て、現職。専門は現代アメリカ文学・映像文化。

主な研究対象は現代アメリカ女性文学で、特に人種／エスニシティ、ジェンダー、階級、身体などの文化的差異とアイデンティティ形成の関係に注目している。現代アメリカ女性文学は個人的経験が重視されてきた背景から、ローカルかつグローバルな視点を提供して「世界文学」化し、アメリカの過去・現在・未来を映し出している。本研究では、アメリカ最大のエスニック・グループとして存在感と影響力を増している中南米系の女性文学の調査を行い、特に近年注目されているカリフォルニアのメキシコ系作家 Reyna Grande を取り上げ、作品とインタビューの分析・考察を行った。

Grande はベストセラーとなった回想録 *The Distance Between Us: A Memoir*（2012）の著者であり、作品では1985年の Grande が9才のときに親と再会するためにメキシコからアメリカの国境を渡る前後の体験を描いている。作品では非正規にアメリカに滞在する移民である「無登録移民」（undocumented immigrant）の少女の経験を当事者視点から描き、アメリカン・ドリームを希求する個人の生存と成長の物語とともに、非正規移民を取り巻く社会的・政治的問題を明らかにしている。

移民の人々の物語とアメリカ

アメリカは、多くの労働力を非正規を含む移民に頼ってきた歴史背景があり、Grande による回想録とアンソロジーは、現在約1100万人以上に上るといわれる無登録移民とその子どもたちに焦点を当てた。現代アメリカ女性作家が戦略的に利用してきた回想録の形式による作者の個人的な物語は、多くの読者の共感を呼び、その体験を広める効果があった。また、Grande は、回想録と小説作品に加え、複数のアンソロジーに親子関係、アイデンティティ、アメリカなどをテーマとした作品を寄稿している。さらに2022年に（元）非正規移民の人々によるアンソロジー *Somewhere We Are Human: Authentic Voices on Migration, Survival and New Beginnings* で、エクアドル出身の Sonia Guiñansaca と共に初めて編者を務め、企画、選考、推敲等に積極的に関わり制作を行って話題となった。アンソロジーの制作においては、元難民であるベトナム系の著名作家 Viet Thanh Nguyen とも協働している。

Reyna Grande の回想録、Grande が寄稿者・編者として参加したアンソロジーと研究書

Grande の創作活動には、1980年代にメキシコ系アメリカ女性作家 Gloria Anzaldúa（1942–2004）が中心としたアンソロジー制作を通して形成された、創作コミュニティによるアクティビズムの影響が見られる。Grande は回想録とアンソロジーで、これまで見過ごされていた新しい視点からアメリカを描き、寄稿者として、そして編者として、人種やエスニシティを超えた物語の共有を通して他者とつながり、現代のコミュニティ形成に貢献していることが確認された。

Grande のように現代の中南米系アメリカ文学においては、過去に見過ごされてきた状況や人物像を取り上げてその焦点と範囲を拡大し、新しい主題とアプローチでアメリカとの関係に取り組み、自分たちを再創造しようとする動向が見られている。また、より広くつながるために、異なる人種・エスニシティの人々と対話し、アメリカの将来に積極的に関わっていく姿勢が見られ、今後の発展が期待されている。

法学部・館田晶子ゼミ「映画で学ぶ人権」イベント成果報告会実施

3月17日、法学部・館田晶子ゼミが行ったイベント「映画で学ぶ人権」の成果報告会が、北海道大学オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」で実施された。このイベントは、札幌市の「さっぽろまちキャンパス共創事業」（学生団体によるまちづくり活動推進事業）補助金にゼミ生が申請。プレゼンテーションを経て交付が決定し、開催された。

成果報告会では、令和5年度に事業の採択を受けて活動した4学生団体の発表があり、質疑応答が行われた。館田ゼミは映画「プリズン・サークル」から、受刑者の更生について考えるイベントを開催した。

岩田地崎建設株式会社から寄付金受領

4月4日、岩田地崎建設株式会社の岩田圭剛代表取締役社長より、本学に100万円の寄付金が贈られ、森下宏美学長より感謝状を贈呈した。

森下学長からは、今回のご寄付を有効に活用させていただくとの謝辞が述べられた。

岩田地崎建設株式会社 取締役専務執行委員 佐藤護建築本部長（右）、森下宏美学長

人事往来

【教員】

退職

令和6年3月31日付

▽経済学部 教授 福田都代▽経営学部 教授・大学院経営学研究科 教授 高木裕之▽経営学部 教授・大学院経営学研究科 教授 田村卓哉▽法学部 教授・大学院法学研究科 教授 佐藤克廣▽法学部 教授 鈴木美佐子▽人文学部 教授・大学院文学研究科 教授 大谷通順▽工学部 教授・大学院工学研究科 教授 堂柿栄輔▽工学部 教授・大学院工学研究科 教授 魚住純▽工学部 教授 稗貫俊文▽大学院法務研究科 教授 大塚龍児▽大学院法務研究科 教授 矢吹徹雄▽大学院法務研究科 教授 丸山治▽大学院法務研究科 教授 大西有二▽大学院法務研究科 教授 矢村宏▽大学院法務研究科 教授 岡田信弘▽大学院法務研究科 教授 吉田康紀▽大学院法務研究科 教授 奥田真与▽経営学部 教授・大学院経営学研究科 教授 関谷浩行▽法学部 准教授・大学院法学研究科 准教授 池田真歩▽法学部 講師 堀井拓也

令和5年9月30日付

▽経済学部 准教授 佐藤敦紘

解任

令和6年3月31日付

▽大学院法学研究科長（教授）鈴木光▽大学院法務研究科長（教授）丸山治▽経済学部長（教授）石井健▽経営学部長（教授）天笠道裕▽工学部長（教授）草間秀樹▽キャリア支援センター長（教授）春日賢▽教育センター長（教授）鈴木美佐子

令和6年4月1日付

▽大学院法学研究科長（教授）神元隆賢▽経済学部長（教授）浅妻裕▽経営学部長（教授）今野喜文▽工学部長（教授）植松武是▽学生部長（教授）宮入隆▽キャリア支援センター長（教授）佐藤大輔▽教務センター長（教授）北原博▽入試部長（教授）鈴木聡士▽図書館長（教授）田中綾▽開発研究所長（教授）濱田武士

令和6年4月1日付

昇格

▽経済学部 教授 柾木貴之▽経営学部 教授・大学院経営学研究科（修）教授 田中勝則▽経営学部 准教授 中村暁子▽法学部 准教授 内藤貴司▽人文学部 教授・大学院文学研究科（修）教授 片岡耕平▽工学部 教授・大学院工学研究科（修）教授 長谷川大▽工学部 教授 友池史明

採用

令和6年4月1日付

▽経済学部 教授・大学院経済学研究科 教授 吉井哲▽経済学部 教授 北口己津子▽経済学部 准教授・大学院経済学研究科 准教授 比嘉一仁▽経営学部 講師 花塚優貴▽法学部 准教授 高谷遼平▽法学部 講師 伊故海貴則▽法学部 講師 田井浩人▽人文学部 教授・大学院文学研究科 教授 岩田哲▽人文学部 准教授・大学院文学研究科 准教授 杉江聡子▽人文学部 講師 南明世▽工学部 准教授 鈴木雄▽工学部 准教授 佐々木裕司▽工学部 准教授 陶山大輔▽工学部 准教授 青木かおり

大学院担当発令

令和6年4月1日付

▽大学院経済学研究科（博）教授 野口剛▽大学院経済学研究科（修・博）教授 菊田悠▽大学院経済学研究科（修）准教授 牛久晴香▽大学院経済学研究科（修）准教授 鈴木雄大▽大学院経済学研究科（修）准教授 土橋康人▽大学院経営学研究科（修）准教授 藤田知也▽大学院経営学研究科（博）教授 下村直樹▽大学院経営学研究科（博）教授 田中勝則▽大学院法学研究科（博）教授 内山敏和▽大学院法学研究科（博）教授 谷本陽一▽大学院法学研究科（博）教授 岩坂将充▽大学院文学研究科（博）教授 片岡耕平▽大学院工学研究科（博）教授 内田ゆず▽大学院工学研究科（博）教授 笹森崇行▽大学院工学研究科（博）教授 喜田拓也▽大学院工学研究科（博）教授 水谷武臣▽大学院工学研究科（修）教授 友池史明

特任教授

令和4年4月1日付

▽大学院法学研究科 教授 稗貫俊文▽大学院法学研究科 教授 大塚龍児▽大学院法学研究科 教授 矢吹徹雄▽大学院法学研究科 教授 丸山治▽大学院法学研究科 教授 大西有二▽大学院法学研究科 教授 岡田信弘▽大学院法学研究科 教授 松久三四彦▽大学院法学研究科 教授 吉田康紀▽大学院法学研究科 教授 門馬明子▽大学院法学研究科 教授 奥田真与

【職員】

退職

令和6年3月31日付

▽工学部 事務部長 安達昭弘▽学生部学生課 係長 田中千里▽事務部庶務課 労務嘱託 貞方宏之▽教務センター 特定事務員 高辻うむぎ▽工学部 臨時事務員 楠瀬輝

令和5年6月30日付

▽経営学部 書記 三浦あいり

昇格

令和6年4月1日付

▽キャリア支援センター 事務長 向井晃平（教務センター係長）▽事務部学習支援システム課 係長 可香谷亮（学生部学生課主任）▽事務部会計課 主任 魚谷実里（事務部会計課書記）

令和6年4月1日付

採用

▽人文学部 書記 松田風音▽工学部 主任 宮路友絵▽工学部 書記 花田真輝▽学生部学生課 書記 岡田拓巳▽事務部庶務課 労務嘱託 上田健一▽教務センター 臨時事務員 大嶋景子

令和6年4月1日付

異動

（　）内は前職

▽事務部国際交流課 事務長 高橋律裕（キャリア支援センター事務長）▽事務部庶務課（兼）国際交流課 係長 畠田康平（事務部庶務課係長）▽教務センター係長 長野桂（事務部学習支援システム課係長）▽事務部国際交流課 主任 熊谷龍（事務部庶務課主任）▽経営学部 主任 新田遼（法学部主任）▽学生部学生課 主任 高田麻起子（工学部主任）▽入試部入試課 主任 川辺祐輝（入文学部主任）▽入試部入試課 主任 川辺祐輝（入文学部主任）▽経済学部 係長 宿村元邦（北海商科大学係長）▽北海商科大学 係長 松山周平（経済学部係長）

トピックス75

「HGU数理・データサイエンス教育プログラム」始まりました

工学部教授　元木（もとき） 邦俊（くにとし）

2023年度から、全学部対象の「HGU数理・データサイエンス教育プログラム」が始まりました。このプログラムでは、急速に発展しているデータサイエンスやAIに関する最も基礎的な知識を修得することを目的としています。学部によってプログラムの修了要件は異なりますが、必修科目と選択科目で構成されています。詳細は大学のホームページをご覧ください。https://www.hgu.jp/about/mds.html

注目してもらいたい科目の一つとして、2023年度から新規に開講された一般教育科目「教養科目特別講義（情報リテラシー）」があります。この科目は、経済学部、法学部、人文学部、工学部においてプログラム修了のための必修科目となっていて、授業は遠隔（オンデマンド）で行われます。この科目では、社会で起きている変化、社会でのデータ活用の方法、AIの活用領域や利活用のための技術、データ・AIを扱う上での留意事項などを広く学修します。

また、経営学部でプログラム修了のための必修科目となっている専門教育科目「情報リテラシー」、「経営統計学概論Ⅰ・Ⅱ」では、上記と同様の内容を学修することに加えて、経営学部の教育目標を俯瞰できるような授業内容となっています。選択科目（経営学部は履修推奨科目）としては、基礎的な数学、統計学、コンピュータ操作を含む情報に関する科目が設定されています。プログラム参加者が自身の興味に応じてこれらの能力を伸ばすことができるようになっています。

「HGU数理・データサイエンス教育プログラム」への参加申し込みは簡単で、LMS（manaba）でアンケートに回答する形式（参加申し込みの質問に「はい」か「いいえ」の2択）です。在学中に一度だけ申し込めばよいのですが、アンケート回答の締め切りが履修登録期限より早いこともあるので注意が必要です。また、このプログラムでは、2022年度以前に修得した科目についても修了のための単位として有効となっています。

2023年3月の卒業式では、修了要件を満たしたプログラム参加学生に修了証が交付されました。プログラムで設定されている科目の多くは1年次に開講されていますが、1年生だけではなく2年次以上の皆さんもこのプログラムにぜひ参加して、データサイエンスやAIについて理解を深めてください。

（HGU数理・データサイエンス教育プログラム運営委員会委員長）

教育振興会

寄付のお礼と監査報告

教育振興会に令和5年度も多くの個人や法人、団体からご寄付をいただきました。皆様の尊いお志にたいしまして衷心よりお礼申し上げます。

令和5年度寄付者ご芳名と、教育振興資金収支決算報告書および監査報告書は次の通りです。

今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

寄付者ご芳名

【個人】（敬称略）

▼10万円未満

安達昭弘、飯野海彦、内田和浩、内山隆史、大橋孝行、加藤正晴、亀屋廣保、木村勝照、木村剛、黒澤規央、佐藤剛、杉本圭吾、杉山匡、田口聖志、竹田直弘、堂柿栄輔、中澤勇斗、仲丸英起、稗貫俊文、福原正己、水野谷武志、宮入隆、山崎省一、渡辺敦

他匿名2名

▼10万円以上50万円未満

小松かおり、佐藤貴史、安酸敏眞

▼50万円以上100万円未満

木村和範、関寛、田中綾、山田早希子

▼金額非公開

天笠道裕、伊熊克己、魚住純、河口忠臣、菊田悠、小山英克、佐藤信、鈴木洋之、須田一弘、館田晶子、福田都代、伏見卓、松久三四彦、元木邦俊、森下宏美、山田俊郎

他匿名7名

【企業・法人・団体】

▼10万円以上50万円未満

新太平洋建設株式会社、北海学園大学蓬門会

▼100万円以上500万円未満

食糧支援に携わった関係者一同 代表 佐藤信

【令和5年度寄付金合計】

6,694,271円

【寄付金累計】

195,464,513円

令和 5年度　北海学園大学教育振興資金　収支決算報告書

自 令和5年4月1日　至 令和6年3月31日

（単位　円）

	前年度繰越	収入の部 令和5年度寄付金	収入の部 委託寄付金繰入	収入の部 その他収入	支出の部 令和5年度奨学金	支出の部 委託寄付金繰出	支出の部 その他支出	次年度繰越
奨学金A	0	2,065,000	435,000	－	2,500,000	－	－	0
奨学金B	0	0	2,700,000	－	2,700,000	－	－	0
奨学金C	0	160,000	40,000	－	200,000	－	－	0
委託寄付金	127,023,365	4,469,271	0	－	－	3,175,000	20,103	128,297,533
その他	3	－	0	2,210	－	－	2,200	13
計	127,023,368	6,694,271	3,175,000	2,210	5,400,000	3,175,000	22,303	128,297,546

（注）その他支出 内訳

1）送金手数料　14,603 円

2）残高証明書発行手数料　2,200 円

3）寄付金募集等に係る印刷経費　5,500 円

北海学園大学教育振興資金　寄付金累計（平成25年度-令和5年度）　195,464,513 円

以上

監査報告書

北海学園大学教育振興会
会長　森下宏美　様

令和 6 年 6 月 18 日

令和5年度 北海学園大学教育振興資金　収支決算報告書について監査を行った結果、会計帳簿は記載すべき事項を正しく記載し、かつ、規程に基づき適切に運営・実施されていることをご報告致します。

監査人　職名　経済学部 教授　氏名　浅妻 裕

監査人　職名　庶務課長　氏名　黒澤 規央

以上

令和6年度

副学長・学部長・研究科長・機関長

令和6年経済学部長

▼副学長

須田 一弘（すだ かずひろ） 人文学部教授
平成2年北海道大学大学院文学研究科博士課程行動科学専攻単位取得退学、平成16年博士（農学）（鹿児島大学）、平成2年日本学術振興会特別研究員（PD）、平成4年本学教養部講師、平成5年同人文学部講師、平成8年同人文学部助教授、平成11年同人文学部教授（文化人類学Ⅰなど担当）、平成18年大学院文学研究科修士課程担当（アジア文化論特殊講義Ⅰなど担当）、平成25年大学院文学研究科博士（後期）課程担当（アジア文化論特殊研究Ⅰなど担当）、平成26年文学研究科長、令和5年副学長

▼経営学部長

今野 喜文（こんの よしふみ） 教授
平成12年慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程単位取得満期退学、平成12年北星学園大学経済学部専任講師、平成15年助教授、平成18年准教授、平成21年教授、平成26年本学経営学部教授（経営戦略など担当）、大学院経営学研究科修士課程・博士課程担当（経営戦略論特殊講義、経営戦略論特殊研究など担当）、令和6年経営学部長

▼副学長

佐藤 淳（さとう じゅん） 経営学部教授
平成6年東北大学大学院教育学研究科博士後期課程教育心理学専攻単位取得退学、平成21年博士（教育学）（東北大学）、平成6年本学教養部講師、平成9年同教養部助教授、平成10年同経済学部助教授、平成14年同経済学部教授、大学院経営学研究科修士課程担当（学習心理学など担当）、平成15年同経営学部教授（学習心理学など担当）、平成22年大学院経営学研究科博士（後期）課程担当（学習心理学特殊研究など担当）、平成24年経営学部長、令和2年経営学研究科長、令和5年副学長

▼法学部長

館田 晶子（たなだ あきこ） 教授
平成13年北海道大学大学院法学研究科博士課程後期公法専攻修了（法学博士）、平成12年日本学術振興会特別研究員（CD2）、平成13年日本学術振興会特別研究員（PD）、平成14年跡見学園女子大学マネジメント学部マネジメント学科講師、平成17年同助教授、平成19年同准教授、平成24年専修大学法学部准教授、平成26年本学法学部教授（憲法など担当）、平成27年法学研究科修士課程担当（憲法特論Ⅰなど担当）、平成30年法学研究科博士（後期）課程担当（憲法特殊研究Ⅰなど担当）、令和5年法学部長

▼経済学部長

浅妻 裕（あさづま ゆたか） 教授
平成14年一橋大学大学院経済学研究科博士課程応用経済専攻単位取得退学、平成14年本学経済学部講師、平成18年助教授、平成19年准教授（職名変更）、平成21年大学院経済学研究科修士課程担当（環境政策特殊講義など担当）、平成23年教授（経済政策Ⅰなど担当）、平成25年大学院経済学研究科博士課程担当（環境政策特殊研究Ⅱなど担当）、

▼人文学部長

小松 かおり（こまつ） 教授
平成10年京都大学大学院理学研究科動物学専攻博士後期課程単位取得退学、平成12年3月京都大学博士（理学）取得、平成10年日本学術振興会特別研究員、平成13年静岡大学人文学部助教授、平成23年同教授、平成28年本学人文学部教授（文化人類学Ⅱなど担当）、文学研究科修士課程担当（環境文化特殊講義eⅠなど担当）、文学研究科博士（後期）課程担当、令和4年人文学部長

▼工学部長

植松 武是（うえまつ たけよし） 教授
平成8年北海道大学大学院工学研究科建築工学専攻博士後期過程修了（工学）、平成8年北海道立寒地住宅都市研究所研究職員、平成14年北海道立総合研究所研究職員、平成20年北海道立総合研究所主査（生産システム）、平成23年北海道立総合研究所生産システム科長、平成22年北海道立総合研究所建築研究本部北方建築総合研究所建築研究本部北方建築総合研究所主査（建築システム）、平成28年北海道立総合研究所建築研究本部北方建築総合研究所主査（構法）、平成27年北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所主査（建築振動論など担当）、令和6年工学部長

▼経済学研究科長

古林 英一（ふるばやし えいいち） 教授
昭和62年京都大学大学院農学研究科農林経済学専攻博士課程中退、京都大学博士（農学）、昭和62年南九州大学園芸学部講師、平成4年同助教授、平成5年北海道大学水産学部講師、平成7年同助教授、平成12年本学経済学部教授（環境経済論Ⅰ・Ⅱなど担当）、大学院経済学研究科修士課程担当、博士（後期）課程担当（環境政策特殊研究Ⅰなど担当）、平成30年経済学部長、令和4年経済学研究科長

▼経営学研究科長

石嶋 芳臣（いしじま よしおみ） 教授
平成6年慶應義塾大学大学院商学研究科経営学・会計学専攻後期博士課程満期退学、平成6年本学経済学部講師、平成7年同助教授、平成15年本学経営学部助教授、平成16年大学院経営学研究科修士課程担当（現代企業論特殊講義など担当）、平成19年同教授（企業論など担当）、大学院経営学研究科博士（後期）課程担当（現代企業論特殊研究Ⅰなど担当）、平成27年経営学部長、令和5年経営学研究科長

▼法学研究科長

神元 隆賢（かんもと たかよし） 教授
平成14年成城大学大学院法学研究科博士課程後期法律学専攻満期退学、平成18年博士（法学）（成城大学）、平成20年三重中京大学現代法経学部准教授、平成22年本学法学部准教授、平成23年大学院法学研究科修士課程担当（個別刑法特論など担当）、平成28年教授（刑法Ⅰなど担当）、平成31年博士（後期）課程担当（刑法特殊研究など担当）、令和6年法学研究科長

▼文学研究科長

郡司 淳（ぐんじ じゅん） 教授
平成2年日本大学大学院文学研究科博士後期課程日本史専攻単位取得退学、平成20年博士（文学）（北海学園大学）、平成7年筑波大学助手 歴史人類学系、平成16年本学人文学部助教授（日本史概論Ⅱなど担当）、平成18年人文学部教授、大学院文学研究科修士課程担当（日本史特殊講義Ⅱなど担当）、平成21年文学研究科博士（後期）課程担当（日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡCなど担当）、平成25年人文学部長、令和5年文学研究科長

▼工学研究科長

山田 俊郎（やまだ としろう） 教授
平成13年北海道大学大学院工学研究科博士後期課程環境資源工学専攻修了、博士（工学）、平成13年豊橋技術科学大学建設工学系助手、平成18年国立保健医療科学院水道工学部主任研究官、平成22年岐阜大学工学部准教授、令和2年本学工学部教授（上下水道工学Ⅰなど担当）、令和3年大学院工学研究科修士課程担当（社会環境工学特別研究Ⅰなど担当）、博士課程担当（環境工学特別講義Ⅰなど担当）、令和5年工学研究科長

▼教務センター長

北原 博（きたはら ひろし） 法学部教授
平成10年大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程独文学専攻単位取得退学、平成16年博士（文学）（大阪市立大学）、平成19年本学法学部准教授、平成23年教授（ドイツ語など担当）、令和6年教務センター長

▼学生部長

宮入 隆（みやいり たかし） 経済学部教授
平成17年北海道大学大学院農学研究科博士後期課程生物資源生産学専攻修了、博士（農学）、平成17年北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット博士研究員、平成20年秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科助教、平成25年本学経済学部准教授、平成26年大学院経済学研究科修士課程担当（農業政策特殊講義など担当）、平成28年教授（食料・農業経済論Ⅰなど担当）、平成28年大学院経済学研究科博士課程担当（農村再編政策特殊研究Ⅰなど担当）、令和6年学生部長

▼キャリア支援センター長

佐藤 大輔（さとう だいすけ） 経営学部教授
平成19年神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程（マネジメントシステム専攻）修了、博士（経営学）、平成14年本学経済学部講師（経営管理など担当）、平成15年本学経営学部講師、平成17年助教授、平成19年准教授（職名変更）、平成21年大学院経営学研究科修士課程担当（経営管理論特殊講義など担当）、平成24年教授、令和6年キャリア支援センター長

▼入試部長

鈴木 聡士（すずき そうし） 工学部教授
平成14年北海学園大学大学院工学研究科建設工学専攻博士（後期）課程修了、博士（工学）、平成14年札幌大学経済学部専任講師、平成16年同助教授、平成18年Vrije Universiteit Amsterdam客員研究員、平成20年本学工学部准教授、平成21年工学研究科修士課程担当、平成25年教授（データ解析演習など担当）、平成27年工学研究科博士（後期）課程担当（環境・エネルギーシステム特別講義など担当）、令和4年入試部長

▼図書館長

田中 綾（たなか あや） 人文学部教授
平成13年北海学園大学大学研究科修士課程修了、平成20年北海学園大学大学院文学研究科学位授与（博士（文学））、平成20年本学人文学部准教授、平成26年教授（日本文学史Ⅱなど担当）、文学研究科修士課程指導、平成29年文学研究科博士（後期）課程担当（日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢAなど担当）、令和4年図書館長

▼開発研究所長

濱田 武士（はまだ たけし） 経済学部教授
平成11年北海道大学大学院水産学研究科博士後期課程修了（博士（水産学））、平成10年日本学術振興会特別研究員、平成12年水産経営技術研究所研究員、平成14年東京水産大学水産学部助手、平成15年東京海洋大学海洋科学部助手、平成18年同准教授、平成24年東京海洋大学大学院海洋科学系准教授、平成28年本学経済学部教授（地域経済入門、地域経済論など担当）、大学院経済学研究科修士課程担当、博士課程担当（地域経済特殊研究Ⅱなど担当）、令和4年開発研究所長

講義をするシュルツ准教授

教員交換プログラム
カナダ・レスブリッジ大学から シュルツ准教授着任

学校法人北海学園とカナダ・レスブリッジ大学との交流協定に基づき、令和6年度第1学期の交換教員としてシュルツ アーラン准教授が4月2日、本学に着任した。シュルツ准教授は、本学の「カナダの自然と社会Ⅰ」を担当する。任期は7月30日まで。

研究室の窓

経営学部教授
伊熊 克己（いくま かつみ）

健全な睡眠習慣確保のために

近年、国民のライフスタイルや価値観の多様化に伴う夜型生活の進行は、我々の睡眠時間を減少させ、睡眠に関する様々な問題を惹起させています。

さて、私は過去、本学学生の睡眠習慣や睡眠障害の現状等を明らかにするためWHOプロジェクト作成によるアテネ不眠尺度の質問と睡眠状況ならびに健康状態に関する調査を実施しました。対象学生205名の内、約6割の者が睡眠障害に該当し、その内、不眠症状の入眠困難を認める者は4割を占めていました。若者の入眠困難の原因については、厚労省の健康づくりのための睡眠指針に若年世代の夜更かしの習慣化による体内時計のずれや睡眠時間帯の不規則化や夜型化に関する記述があり、寝床に入ってからの携帯電話・ゲーム等の熱中により目が覚めてしまうこと、さらに就寝後、長時間の光の刺激が覚醒を助長すること等が夜更かしの原因に繋がるという指摘があります。

また、私は睡眠調査以前に学生のスマートフォン使用状況と健康状態に関する調査を実施しました。対象学生267名の内、一番利用する生活場面は「自宅の自由時間」に次いで「就寝時、布団やベッドの中で」の回答が多く、また、利用により減少したと自覚する生活時間の内「睡眠時間」が最も多い回答であったことを報告し、就寝時、寝床での使用が学生の健康的な入眠を阻害する一因と推察されることについての言及をしております。

ここまで学生の睡眠問題を記述してきましたが、今日では一般人も同様の状況にあると思います。特に、前述した夜更かしの原因ともなるスマートフォンやPC等の情報機器の使用率に着目すると、新型コロナウイルス感染蔓延期とウィズコロナ生活にシフトした現在は、感染以前の時期に比べて確実に増加していると推察します。今後、我々は自己の健康を維持するために、健全な睡眠習慣の確保を意識した情報機器の使用方法について、再検討する必要があると考えるのです。

最後に拙稿を閉じるにあたり手前味噌で恐縮ですが、前述に取り上げた「学生のスマートフォン使用状況と健康に関する調査研究」北海学園大学経営学会論集第13巻第4号（2016年3月）の内容が以下の書籍に引用掲載されましたので紹介させていただきます。

【大嶋祥誉（おおしま さちよ）著『マッキンゼーで学んだ時間の使い方がうまい人の一瞬で集中する方法』4「隠れ疲労」―知らない間にあなたをむしばむ「疲れ」とは？スマホが奪う「睡眠」（株式会社PHP研究所、頁60―62、2024年3月12日 第1版第1刷発行）】

未来展望

人文学部講師
谷端 郷（たにばた ごう）

曼荼羅と絵解き／マップとストーリー

映画「劔岳 点の記」（木村大作監督、東映、2009年、原作は新田次郎の同名小説）をご存知だろうか？ 明治時代に入ると、近代日本の国家事業の一つとして領土の正確な地図が作製されるようになる。それを担ったのが陸軍の陸地測量部である。またこの時代、近代的な登山技術を取り入れた日本山岳会も活動を開始する。国内最後の未登頂の山であった剣岳に測量部の測量隊と山岳会のどちらが先に登るか―。これが話の本筋で、オチの意外性も見事である。

この映画には、陸地測量部や山岳会といった登頂を目指す考え方とは対立する立山信仰（剣岳は立山連峰にある）の様子も描かれていて興味深い。立山信仰の描写で印象的なのが、麓の宿坊で衆都が登拝者に向けて立山曼荼羅の屏風を見せながら、「絵解き」をする場面である。立山曼荼羅は立山信仰の世界観を表した絵図なのだが、ただ漫然と眺めるだけでは理解できない。そこで「絵解き」を介することによって、登拝者は登る山に関する知識や登ってはいけない山（たとえば剣岳）の意味などの理解を深めていく。他方、語り手である衆都にしてみれば、いかに面白く語るかが腕の見せ所となる。

翻って現代。曼荼羅のような世界観を伝える絵図に対して、どこに何があるか正確な情報を伝達する地図が主流を占めている。また、それを読み解く技術も面白さよりも正確さが重視される。ただ、地図の読み取り方は今なお一つではなく、現代においても「絵解き」の要素が失われているわけではない。

最近「ストーリーマップ」や「ストーリーテリング・マップ」などと呼ばれる、デジタル地図と文章・写真などを組み合せたWebマップがノーコードで比較的簡単に作成できるようになり、たとえば戦災や震災の記憶を伝えるアーカイブに一役買ったりしている。ストーリーとマップに何の関係があるのか訝しがる向きもあろうが、曼荼羅と「絵解き」の関係を考えると故なきことではない。地図をいかに読み取るか、このこと自体きわめて創造的な営みなのである。

本学の学生が作成したストーリーマップの一部

研究室を訪ねて Vol.15

経営学部経営学科
金 倫廷（キム ユンジョン） 准教授

【企業行動、日本企業論】

早稲田大学大学院商学研究科商学専攻博士後期課程満期退学。商学修士（早稲田大学大学院）。研究テーマは、組織アイデンティティとアイデンティフィケーションに関する研究。

「自分は何者なのか？」個人の問いが研究の原点

本学で活躍する専任教員の研究を、その人となりとともに紹介する「研究室を訪ねて」。第十五回は、「企業行動」などの講義を担当する経営学部の金倫廷准教授の登場です。

―金先生のご出身はどちらですか？

金　韓国第二の都市の釜山（プサン）です。

―いつ、なぜ日本に来られたのか教えてください。

金　日本に来たのは2000年、留学のためです。私の母は、卒業はしていませんが、京都の同志社大学に留学経験があり、私たち子どもは「将来は日本に留学するんだよ」と言われながら育ちました。実は私は地元の大学に進学したんですが、専門が合わずに半年で中退。その後、早稲田大学商学部への留学を決めたんです。

―日本語は留学前から勉強されていたのですか？

金　いえ、平仮名と片仮名の読み書きと挨拶ができる程度で、ほとんどゼロ。そこから2年間勉強しましたが、授業についていけるかどうか不安で、いつも一番前の席に座って、先生の講義はジョークまで全部ノートに書き取っていました。周りが驚くほど真剣に勉強しましたね。

―商学部を選んで入学されたのはなぜですか？

金　お金の稼ぎ方について勉強したかったからです。授業では商品を効率的に販売するための仕組みであるマーケティングについても学びましたが、いかにしてお金を儲けるかには興味が持てず、企業倫理やCSR（企業の社会的責任）に目が向くようになりました。

韓国の大学で挫折して、自分は何者なのかと考えるようになっていたので、1年生の時に心理学の授業で学んだアイデンティティという概念に惹かれました。企業も人と同様にアイデンティティを持っていると考えれば、企業をより深く理解できるだろう。そして、企業の不祥事がなぜ起こるかという問題意識もあったので、大学院に進むことにしたんです。

―それが研究者への第一歩だったわけですね？

金　そうです。そこで、以前からの企業倫理やCSRへの関心ともつながる組織アイデンティティの研究を始めました。ところがこれが、研究者も少ない難テーマでした。

研究テーマ変更の試行錯誤

金　目には見えない組織アイデンティティを構造化しようと、まず、小さなITベンチャー企業の従業員を対象に調査を行いました。でも、このやり方では組織アイデンティティの研究者にはなれないとわかり、研究テーマを組織アイデンティフィケーションに変更しました。

それぞれの違いは、組織アイデンティティの研究は「組織としての我々とは何者か」という組織についてがテーマ、組織アイデンティフィケーションの研究は「組織に対するメンバーシップの認知＋メンバーの一員であるという帰属意識」がテーマです。

アイデンティティが意識されるのは、それが危機的状況になった時です。個人で言えば、就職や転職、企業ではM&A（企業の合併や吸収）で人間関係や組織の状況が大きく変化した時などです。

組織アイデンティティは組織にとって重要な意思決定に影響するため、組織のあり方を左右し、必然的にメンバーにも影響を及ぼすことになります。例えば、所属する企業・組織が社会的に高い評価を受ければ、従業員（メンバー）も誇りを持つといった現象は、相互関係のある組織アイデンティティと組織アイデンティフィケーションによって説明できます。

―コロナ禍では対面授業ができなくなるなど、大学でも対処を迫られました。先生はどうされましたか？

金　学生が自分たちでグループを作り、そのグループごとにテーマを決め、ZoomやLINEなどを使ってグループ・ディスカッションするようにしました。コロナ禍だからこそ人とのつながりが必要だということで、非対面でもグループ・ディスカッションできる方法を考えて、ある意味無理だと思われることも実施したわけです。出欠は取らず、評価は提出された課題、動画等、レポートによって行います。

特徴的なのは、レポートは提出して終わりではなく、学生同士で相互評価してもらっていること。仲間のレポートを読み、評価する機会はあまりないので、いい経験になっていると思います。

―最後に学生の皆さんへのメッセージをお願いします。

金　私は、学部と大学院の中間くらいのレベルを設定して授業をしています。と言うと難しそうと思う人もいるでしょうが、決してそんなことはありません。私が難しい日本語を使えない外国人ということもあるかもしれませんけれど（笑）。ともかく、失敗を恐れず新しいことにどんどんチャレンジしてほしいと思っています。

チャレンジと言えば、ゼミの学生が札幌商工会議所が主催する「学生論文コンテスト」や同「アイディアプレゼンテーション」で2年連続で受賞しました。残念ながら去年からどちらもなくなってしまいましたが、またこのようなコンテストなどのチャンスを見つけて頑張ってもらいたいと願っています。

韓国のご友人が描いた絵を背景に、研究テーマであるアイデンティティの本を手にして。

金先生のプチ解説　社会学での組織研究と経営学での組織研究の違い

一般に経営学の特徴として①学際性、②実践性、③人間の主体性が挙げられます。経営学は、人間の主体性を重視しながら、経済学や社会学など様々な学問から知恵を借りて発展してきました。私の研究テーマである組織アイデンティティと組織アイデンティフィケーションも、同じく心理学や社会学などから得られた知見をもって、実際の組織現象や企業行動を解明しようとする研究領域と言えます。たとえば「従業員が自らを会社の一員として強く認知するとその会社の業績がよくなる」を考えてみましょう。これは非常に極端な例ですが、私たち経営学者は、組織に何らかの影響を及ぼす要因（一員としての認知）が組織にもたらす結果（業績）との関係を明らかにします。つまり、経営学分野の研究は、どうすればより良い企業経営ができるか（実践性）までをも視野に入れている点において他の学問の研究と異なります。

新任教員 挨拶

経済学部

地域経済学科 教授 **北口 己津子（きたぐち みつこ）**

主に図書館学課程を担当します。乳幼児に絵本を渡す〝ブックスタート〟と呼ばれる取り組みや、絵本の読み聞かせ法について研究を進めています。また図書館現場で司書の経験があります。現場経験を活かして授業やゼミでは、大学生の皆さんが、〝情報の大海原〟をとまどう渡れるように、また生涯学習社会を生きる一人として、効果的な図書館利用法や読書について興味を持って学べるように努めます。どうぞよろしくお願いいたします。

経済学科 准教授 **比嘉 一仁（ひが かずひと）**

本年度より北海学園大学経済学部に准教授として着任した比嘉一仁です。ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱを担当します。家計（需要者）及び企業（供給者）の行動を中心に解説して、人の行動や意思決定について経済学的な考え方が理解できるように講義を行います。専門は応用ミクロ計量経済学で、データを用いて社会・経済現象を分析します。修得した知識を活用し、社会貢献に繋がる人材を育成したいと考えています。よろしくお願いいたします。

経済学科 教授 **吉井 哲（よしい さとし）**

本年度より学長になられた森下宏美先生の後を引き継いで「経済学史」を担当いたします。出身は札幌市で、大学院を卒業するまでずっと札幌市に住んでいました。15年ほど名古屋市にある大学に勤めておりましたので、故郷にある本学で働くことができることに嬉しさを感じております。北海学園大学生に対しては、昔からパワフルなイメージがあり、勉学にサークルに全力を尽くしている印象です。学生の皆様にお会いできるのを楽しみにしております！

経営学部

経営情報学科 講師 **花塚 優貴（はなづか ゆうき）**

「適応の心理学」「心的情報処理論」を担当します。学生時代にはオランウータンというヒトに近縁な動物の認知研究（例：長期間会っていない仲間の顔の認識）を行っていました。また非言語的に認知機能を評価するという技能を活かし、言語理解が難しい認知症患者さんを対象とした研究も実施しています。「進化」「脳」というキーワードをもとに心理学の魅力を存分に伝えていけたらと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

法学部

法律学科 講師 **伊故海 貴則（いこみ たかのり）**

本年度より「日本法制史」と「歴史学」を担当します。専門は日本近代史で、明治維新期において多数決を備えた議会が地域社会に導入されていく過程を研究してきました。これからは北海道における合意形成システムについても研究していきたいと考えています。過去を知ることは、現代社会をより深く理解することにもつながります。歴史的に物事を考えることの楽しさを伝えていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

政治学科 講師 **田井 浩人（たい ひろと）**

「行政学」を主に担当いたします。しばしば、行政学は「地味」「難しそう」「公務員（志望者）のための学問」などと思われがちですが、社会の諸問題を紐解いていくうえで、行政のはたらきを理解することはとても重要です。また、行政学では、政治学はもちろん、法学や経営学、社会学など、さまざまな分野の知識に触れることができます。講義では、そうした意義や魅力を伝えられるよう励みたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

法律学科 准教授 **高谷 遼平（たかや りょうへい）**

今年度より法学部法律学科に着任しました高谷遼平と申します。一般教育科目「論理学Ⅰ・Ⅱ」と法学部「基礎演習」を担当します。専門は現代哲学、特に言語哲学と呼ばれる分野で、自然言語の意味やその理論に関する研究を行っています。学生の皆さんが哲学や論理学を身近に感じられるとともに実践的な論理的思考力を身に付けられるよう、わかりやすく、そして面白い授業を行いたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

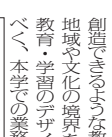
英米文化学科 教授 **岩田 哲（いわた あきら）**

「英語音声学」を担当いたします。個人差要因を加味しながらも、効果的で効率の良い英語学習法と教授法に興味を持っております。聞く、読む、話す、書く、の4技能伸長とその下支えとなる語彙の学習は非常に重要ですが、コミュニケーションという側面からは、「誤解のない」発音の重要性も高まっていると思います。授業等を通じ、学生の皆さんと一緒に学習できることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

人文学部

日本文化学科 准教授 **杉江 聡子（すぎえ さとこ）**

主に中国の言語・文学・文化科目を担当します。専門は応用言語学・教育工学で、中国語教育におけるAIやICTの活用について教育実践研究を行っています。最近はメタバース・VRを用いた文化観光や異文化理解教育のためのコンテンツ開発に取り組んでいます。学生さんや世界の多様なアクターと共に新たなメディア文化を創造できるような教育を目指します。国・地域や文化の境界を越え、変容し続ける教育・学習のデザインの可能性を拡げるべく、本学での業務に邁進いたします。



日本文化学科 講師 **南 明世（みなみ あきよ）**

日本語学の講義を担当することになりました南明世です。日本語の様々な表現についてはとても興味があります。ことばの表現が変われば表される意味も変わります。客観的な視点から日本語を見つめ直し、ことばの奥深さ、面白さを伝えられるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

生命工学科 准教授 **青木 かおり（あおき）**

工学部生命工学科に着任した青木かおりです。「地球科学」という全学向けの授業で多くの学生さんと顔を合わせる機会があると思います。研究対象としている分野は火山の噴火史や、第四紀とよばれる過去258万年間の環境変遷についてです。授業では地球や日本列島の自然環境の成り立ちや頻発する災害についてふれることが多いと思います。皆さんが様々なことに理解を深め、豊かな大学生活を送れるよう、私も頑張ります。

電子情報工学科 准教授 **佐々木 裕司（ささき ゆうじ）**

今年度より工学部電子情報工学科に着任いたしました佐々木裕司と申します。光工学Ⅰなどの講義を担当いたします。私の研究対象は液晶・高分子など、ソフトマターと呼ばれるやわらかな物質群です。一見すると複雑な構造をもちますが、身の回りでは電子材料・光学材料として広く応用されています。教育と研究の機会を通して、学生の皆さんの学びの一助となれるように努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

社会環境工学科 准教授 **鈴木 雄（すずき ゆう）**

今年度から北海学園大学の一員に加わりました鈴木雄と申します。専門は交通計画や都市計画です。人々が安全・安心かつ持続的に暮らせるための交通や都市の在り方について工学的に解いています。都市や移動に関するビッグデータの解析や、住民・利用者の意識分析などを行っており、そこから得られた知見を社会実装することをモチベーションとしております。北海道に住む人の生活をより良くするために、尽力してまいります。北海道に住むのは初めてです。美味しいお店等教えていただけたら幸いです。

電子情報工学科 准教授 **陶山 大輔（すやま だいすけ）**

道東の標津町出身で、大学は北海道大学、研究員時代には本学の非常勤講師をしておりました。その後は椎内、大分県と巡り、6年振りに札幌に戻ってきました。専門は数学で、特に超平面配置の理論について研究しており、簡単な例では「豆腐に包丁を5回入れると最大何個に分けることができるか？」のような問題を扱っています。数学の面白さを伝えられるような講義をしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

人文学部 書記 **松田 風音（まつだ かぜね）**

①北海学園大学人文学部英米文化学科②小松かおりゼミ「中小地場食品小売店だからこそできること―『くいしんぼうのやおや』を事例として―」③母校で働くことができ、とてもうれしいです。精一杯邁進してまいりますのでよろしくお願いいたします。

工学部 書記 **花田 真輝（はなだ まさき）**

①北海学園大学法学部政治学科②淺野高宏ゼミ「労働法」③皆様の大学生活をサポートできるよう精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

学生部学生課 書記 **岡田 拓巳（おかだ たくみ）**

①小樽商科大学商学部商学科②大学のゼミでは会計学とファイナンスの観点から投資指標についての研究していました。③一日でも早くみなさんのお役に立てるように精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

工学部 主任 **宮路 友絵（みやじ ともえ）**

①天使女子短期大学専攻科衛生看護学専攻②学生・教職員の健康管理③これまでの経験を活かし、北海学園に貢献できるよう、努力してまいります。よろしくお願いいたします。

新任職員紹介

①出身学校・学部・学科
②所属ゼミ及びテーマ／前職の業務内容
③抱負

新 学部長・研究科長に聞く！

今年度新しく就任した経済学部長・浅妻裕教授、経営学部長・今野喜文教授、工学部長・植松武是教授、法学研究科長・神元隆賢教授いに、今後の取り組みや抱負などを伺った。

経営学部長
今野（こんの） 喜文（よしふみ） 教授

―経営学部の特色はどのようなものですか？

北海経営（経営学部）の特色の一つとしてあげられるのは、組織、戦略・マーケティング、会計・ファイナンス、情報、心理・人間行動に関する幅広い開講科目が用意されており、これらの科目を集中的・体系的に学ぶことができることです。さらに、ゼミ活動や海外総合実習、北海経営CDP（キャリア・デザイン・プログラム）を通じ、講義で学んだ理論を実践に活かす機会が豊富にある点も北海経営の特色であるといえます。つまり、専門知識の深い理解をもとに実践し、理論と実践との乖離、理論や実践における課題を見出す等、理論と実践の相互をバランスよく学べる点こそが北海経営の最大の特色であり強みです。

―経営学部の最近の取り組みや、今後取り組みたいことがあればお聞かせください。

新カリキュラムがスタートして2年目になりますが、1部の新カリキュラムの目玉である北海経営CDPでは、地域企業の社員とともに課題解決を行っています。2部の新カリキュラムではゼミを2年次（旧カリキュラムでは3年次）からスタートさせ、早期から少人数で学ぶ機会を確保して3年間でいろいろな専門の先生から学べるようにしました。今後、これらの取り組みがどのような成果につながるのかがとても楽しみです。

様々なステークホルダーにとってより魅力的な北海経営に

―新学部長としての抱負を。

イノベーションを創出して新たな時代を牽引できる人材や社会の中核で活躍できる人材の育成に注力することはもちろんのこと、在学生、教職員をはじめとしたさまざまなステークホルダーにとって、北海経営がよりいっそう魅力的な存在になれるように邁進します。

―学生へのアドバイスを。

京セラ創業者の稲盛和夫氏の言葉に、「人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力」があります。この中でとても大切なのが「考え方」です。考え方がマイナス思考だと、結果もマイナスになりがちだからである。人生や仕事の結果は、まさに考え方次第で変わることを忘れないでください。

―先生の休日の過ごし方、趣味を教えてください。

休日は高齢の両親の面倒をみるために実家にできる限り帰るようにしています。趣味はお酒（日本酒、ワインをはじめ何でも好きです）でしょうか（笑）。

今野先生のおすすめの本

チャールズ・A・オーライリーとマイケル・L・タッシュマンが執筆した『両利きの経営：「二兎を追う」戦略が未来を切り拓く』（2019年、東洋経済新報社）を推薦します。

経済学部長
浅妻（あさづま） 裕（ゆたか） 教授

―経済学部の特色はどのようなものですか？

経済学を学べば、社会を見る自分なりの視点が養われます。将来どんなポジションに就く人にとっても意義深い学問だと考えています。カリキュラムではそれぞれの専門で、入門から応用まで学生の学びの発展をフォローできるような科目を配置しています。また、地域経済学科を中心に地域研修を展開しています。自治体や企業などと連携し、現地で学ぶことで、地域経済・社会の実態や課題について、理解を深めることができます。

―新学部長としての抱負を。

経済学部の教員は、それぞれ興味深く魅力的な研究テーマを有しています。専門分野も実に多彩で、このような魅力がカリキュラムと結び合わさり、学外へわかりやすい形で伝える必要性を感じています。学生が体系的に学ぶ中で、個々の教員の知見が生かされることが経済学部の魅力をおおいに高めることになると考えています。

多彩な教員達と経済学の魅力を伝えたい

―経済学部の取り組みを教えてください。

経済学部の卒業生をお呼びして、大学で学んだことが今の活躍にどういうふうに結びついているのかをお話しいただく「フロンティア講座」を開講しています。「自分もこのようになれるのだ」と実感して、様々なモチベーションに繋がることを期待しています。

四年生向けには2019年度に「江川賞」を創設しました。優秀な卒業論文を執筆した学生をきちんと顕彰する取り組みで、我々教員も驚くほど素晴らしい論文もあります。

―学生へのアドバイスを。

ゼミや地域研修での主体的な取り組み、勉強・研究にも関係する学内外での様々な活動に挑戦して欲しいですし、経済学部ではそのような機会が提供されていると思います。少しの勇気、半歩でも一歩でも踏み出すことで、成長できる世界が広がっています。そういったチャンスを逃さない学生は、卒業時に「充実した学生生活だった」と振り返ることができるのではないでしょうか。教員とも積極的にコミュニケーションをとって、視野を広げてほしいです。

―先生の休日の過ごし方、趣味を教えてください。

2003年に発足した教職員のフットサルチームがあるので、たまに参加しています。良いリフレッシュとなっています。

また、研究とも密接不可分なのですが、札幌市の交通まちづくりを進める団体で取り組みをしています。例えば、公共交通機関を活かしたまちづくりで社会がどう変わるか。今の「常識」にとらわれずに考えていきたいなと思っています。

浅妻先生のおすすめの本

『交通崩壊』（市川嘉一、新潮新書）

工学部長
植松（うえまつ） 武是（たけよし） 教授

―工学部の特色はどのようなものですか？

工学部は四つの学科に分かれていて、独自性が強いと思われがちですが、そもそも工学には共通した考え方があることを知って欲しい。

まずは「目的」。目指す成果は、誰かの、何かの役に立つものでなければなりません。そのためには精密さも、柔軟な対応も必要で、その判断には経験値も大切ですが、学生ならではの斬新な発想も許容できるのが工学の分野です。

次に「取り組み方」。目標をたてて、解決するための手法を考え、実践してみる。うまくいくこともあれば、うまくいかないこともある。そこで終わってはいけません。経緯と結果は必ず人に伝えて残す。それぞれが経験した無駄や失敗も、共有することで無駄や失敗ではなくなります。そして他の人の経験も活かしながら次の目標を立てて前へ進むのが工学です。一人で行う研究もありますが、チームで情報を共有・継承することが大切で、これは特別な人でなくてもできるはずです。誰でも挑戦できるのもまた工学で、工学部では、その挑戦分野を学科として四つ準備していますが、同じ学科の中でも挑戦分野は多岐に渡っています。

工学への取り組みを通じて豊かな生き方を身につけてほしい

―新学部長としての抱負を。

工学を通じて、豊かな生き方を身につけてほしい、そういう人間を輩出する役割があると思っています。謙虚さ、誠実さ、協調性、根気強さ…そういった習慣の中で育まれる感性や成果が、自信と信頼につながることを経験できる学部でありたいと思っています。

―学生へのアドバイスを。

工学は答えを提案していく学問ですから、新しいことや難しいことへの挑戦を避けていると行き詰まってしまいます。試行錯誤に没頭できるのは学生時代だけです。自分で挑戦して、成功して、失敗して、実践を通して自分にあったやり方を見つけてほしいです。あとは、お世話になった人にしっかり筋を通してください。工学はチームで取り組むものですから。

―先生の休日の過ごし方、趣味を教えてください。

休日も学生と一緒にいることが多いです。コロナ禍の大変な時期でも前に進もうとしている学生から元気をもらうこともありました。また、フットサルのチームの顧問を始めました。自主的に取り組む学生が集まり、目標意識が高く、やりがいを感じています。

植松先生のおすすめの本

『ヒトはなぜ助平になったか』（戸川幸夫、1988年、講談社文庫）。ふざけたタイトルに見えますが、どんなことにも理由、根拠があると改めて感じることができる一冊です。

法学研究科長
神元（かんもと） 隆賢（たかよし） 教授

―法学研究科の特色はどのようなものですか？

法学研究科は法律と政治を両方学ぶことができ、二部の時間帯は夜間にも対応しています。

―新研究科長としての抱負を。

研究教育環境の整備というところが重要となると思います。大学院へ進学した学生ができるだけ望む進路に行けるように、より良い環境を用意したいです。データベースや、研究資料の整備に力を入れていきます。

―近年、大学院進学率の低下が問題化されていますが、大学院で学ぶことの意義についてPR願います。

どういう進路を目指しているかというのが大きいと思いますが、資格獲得のためという学生は多いです。難関な司法書士の資格を狙う時に無職では大変ですので、修士課程に進学して関連する勉強をしつつ、資格試験の合格を狙うというのがやりやすいです。また最近では、高齢者の方が定年退職後、純粋に学問への興味のため大学に進学するということも増えています。私の院生でも定年退職後に進学して刑事法を学んでいる方がいて、高齢者の犯罪についてどう処遇するのかを勉強しています。有職者の方は結構いて、現職の看護師もいます。本来はそういった、学問への興味で進学することが望ましいですが、若い学生は経済的な状況などでなかなかそうもいかない。ですので、進路の手助けとして、研究をやりやすい大学院という場で資格取得を目指すことになるかと思います。

学びたい分野へ進めるよう研究教育環境の整備を

―学生へのアドバイスを。

自分の勉強したい分野に進むことが一番ですので、ゼミも人気があるからという理由で選ぶのではなく、純粋に自分のやりたい学問から検討してほしい。どのゼミに進むべきか、助言もします。司法書士を狙いたいなら民法と憲法と行政法のゼミのどれかから選ぶ、とか。公務員の勉強をやりたいなら、司法書士と絡むので民法・憲法・行政法が同じく大事になるし、政治学の科目も選択肢に入ってくる。宅地建物取引士ですと民法です。志望する職種等とマッチングする分野から選択してもらいたいです。

―先生の休日の過ごし方、趣味を教えてください。

古い物を直すのが趣味です。例えば、百年前の万年筆を買って、直して使えるようにします。パーツをイギリスから取り寄せたりもします。あとは娘の影響でゲームをやっています、「スプラトゥーン」（笑）。

神元先生のおすすめの本

まずは『刑法学のあゆみ』（三井誠・町野朔・中森喜彦、有斐閣）。『法律論分の考え方・書き方』（広中俊雄・五十嵐清編、有斐閣）は、法律論文の書き方をレクチャーする本です。一読しておくと、レポートを書く際にも重宝します。

在外研修報告

オーストリア／ウィーン大学

経済学部教授　北原（きたはら） 寛子（ひろこ）

（専門：ドイツ文学）

2000年の古都で本の虫

研究に最適な環境に感謝

オーストリアの首都ウィーンにおける在外研修では研究に集中できる環境と時間をいただき充実した日々を送ることが多かったです。文学研究は読書と考察が主な活動なので、一人の作業が基本です。国立図書館の閲覧室に行くこともありましたが、後半は大学図書館で借出した本を家で黙々と読んでいることが多かったです。テクストを通して過去と向き合う作業は静謐そのものですが、知識が深まり繋がりあう過程は喜びと驚きに満ちた愉悦でした。

ウィーンにはケルト人の時代からすでに町があったそうで、その後ローマ帝国やハプスブルク帝国などで重要な役割を果たしてきました。街の景観がじつに荘厳で、古代の遺跡から近現代の名建築まで図鑑で見たことがあるものがずらりと並んでいました。また美術館に行ってもフェルメールにブリューゲル、クリムトにシーレなどの名作が続き、コンサートやオペラでも超一流の音楽家が日替わりで登場し、芸術愛好家には夢のような世界でした。趣のあるカフェがたくさんありますが、多くの文化人が訪れ交流したので「カフェ文化」としてユネスコ無形文化遺産に登録されているほどです。

そんな歴史と文化が詰まったウィーンですが、もちろん現在進行形の都会でもあります。ウクライナやロシア、中東から最近の世界情勢の影響でやってきた人々も多く、公共交通の中はアラビア語やロシア語が飛び交っていました。世界のあちこちで軍事衝突がおこり不安定化している昨今ですが、みんなで仲良く電車に乗れる社会は平和でいいなとほっこりしていました。ウィーンの地元の方は気さくで冗談好きで面白かったです。さらにウィーンの自然は札幌とそっくりで、ドナウ河岸にははまなすが咲いていました。住宅街の雰囲気もよく似ていて、ランニング中に札幌に迷いついたのではないかと錯覚したことが度々ありました。

今回の研修に当たって、ウィーン大学のクリークレーダー教授と経済的なサポートをいただいた本学と法人の関係各位にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。教員のみなさんのご理解とご協力にも感謝です。事務のみなさんのきめ細やかで心のこもった対応にはいつも助けられ、勇気づけられました。本当にありがとうございました。

ドナウ河の中州に咲くはまなす。後ろのビル群はIAEA本部など。

街の中心部の趣ある路地ナーグラーガッセ

学園人脈記

第27回

YouTuber　山本 大希（やまもと だいき）

法学部政治学科 2009年度卒・Ⅱ8期生

バレーボール選手、YouTuberになる。

多種多様な業界で活躍する同窓生をリレー形式で連載している「人脈記」。今回は、ユーチューバーの山本大希さんを紹介する。

▶▶▶

3・2万人のYouTube登録者を持つ「旅系ユーチューバー」の山本さんは、これまで世界70か国を訪問し、旅行にまつわる様々な動画を配信している。それまでの人生は旅とはまったく関わりがなく、バレーボール一色だったという。

「中学からバレーをはじめて、高校、大学でもバレー部に所属しました。優勝を経験したり、個人賞をとったこともあります。卒業後は大学でコーチをしていた時期もあり、バレーとの関わりは続いていました」

大学卒業後は旅行会社に就職。バレーも続けながら二足の草鞋だったが、転勤を命じられたタイミングでバレーを選択、転職した。しかし、転職先が「ブラック企業気質」だったこともあり、会社勤めは自分にはできないと感じながらの勤務だった。1年半ほど勤めたあと、大学時代のバレー部の先輩からの誘いで、バレーボール・Vリーグのヴォレアス北海道に所属し、選手として活躍した。

「選手になったのは30歳の手前で、膝がずっと痛くて思い描いたプレーはできませんでした。でも、会場の熱気や、応援の力を感じたことは忘れられません」

▶▶▶

Vリーガーを引退後は一転、旅に出るようになった。もともと好きだった旅や、お得な旅行方法などの知識を活かすことができると考え、動画制作をはじめた。

「見よう見まねで自分で撮影・編集をしてみたんですけど、動画配信を本業にしていくにはある程度テーマなどを固めて制作しなくてはいけないなと、やりながら学んでいきました」

情報収集をして、飛行機に乗って旅先へ。動画を撮影し、帰って来たら編集作業。日常はその繰り返しだが、一か月間海外に行きっぱなしになることや、昼夜を問わず編集作業をする日もあり、「ひとりブラック企業状態です（笑）」と言うが、楽しくやりがいを感じている。

「ユーチューバーになりたいと考える学生さんもいるかもしれませんが、中途半端な気持ちではやらないほうがいいです。見た目以上に難しいですし、大変です。まずは大学の4年間を無駄な時間にせず、勉強でも遊びでも一生懸命やってほしい。僕も部活やゼミで出会った人たちとは今でも繋がりがあり、大きな財産となっています」

今後は、YouTubeの動画配信以外にも旅情報を提供するオンラインサロンなどを企画し、動画だけに頼らず収益をあげられる柱を作りたいと考えている。

「プロフィール」2010年北海学園大学法学部卒業。旅行会社などの勤務を経て、2017／18シーズンにVリーグ・ヴォレアス北海道に加入。翌シーズンに引退。現在、「旅系ユーチューバー」として世界70か国を訪問した経験を活かし、飛行機、マイル修行、旅先、ホテルに関する動画を多数公開中。

山本さんのYouTubeアカウントはこちらから

大学バレー部時代。2008年春季リーグで男女アベック優勝（山本さん提供）。

地域の現場から

北海道大谷室蘭高等学校
女子サッカー部監督
教員　石井 一矢（いしい かずや）
人文学部日本文化学科
2010年度卒・Ⅱ15期生

社会の中で〝背番号10〟を付ける人に

1993年のJリーグ開幕をきっかけに、自らもサッカーを始めた石井さん。中学、高校は選手として活躍しながらも、プロを目指すにはスキルが足りないと実感した。

「ただ、サッカーが好きな気持ちだけは負けていないと思っていたので、その情熱を後進に繋げる立場でサッカーを支えたい、教員としてサッカーに携わりたいと思いました」

経済的に厳しい家庭環境と、教員の夢が叶えられることが合致し、北海学園大学の2部に入学した。

「2部は働きながら通っている人が多いので、一つ二つどころか、十も二十も年が離れた人と話す機会がありました。自分の価値観が変化するのを実感し、とても恵まれた環境でした」

大学卒業後は、現在の北海道大谷室蘭高校に赴任。当時は室蘭大谷高校と登別大谷高校が統合する時期で、石井さんも登別で勤務しながら時間講師として室蘭で勤務、柔道部の顧問を任されたこともあった。高校統合のタイミングで、男子サッカー部のコーチとなった。教科指導、サッカー部の選手の強化や進路指導など、教員の忙しさを実感した日々だった。3年前に女子サッカー部の監督になり、今に至る。

「うちの選手は勉強も部活も頑張りたいと、目的意識を持って来てくれます。いずれはサッカーを中断したり、辞めることもあるかと思いますが、サッカーがなくなったとしてもそういう経験は活きる。社会に出れば誰でも〝背番号10番〟が付けられます。サッカーを通じた人間教育ができたらと、スタッフ一同奮闘しています」

「鉄のまち、サッカーのまち」として栄えた室蘭だが、人口減少や少子化の問題も抱える。

「今年と来年の女子サッカーは、室蘭で全国インターハイが開催されます。これを機に、室蘭に新しい活路が生まれ、かつての活気を取り戻してくれるといいなと期待しています」

基礎スキー部 全国大会5位入賞

3月3日～6日に長野県の白馬岩岳スノーフィールドで開催された第51回全国学生岩岳スキー大会（一般社団法人白馬村スキークラブ主催）で、本学基礎スキー部の髙橋栄昇さん（経済学部地域経済学科2年）が、男子総合5位に入賞した。

髙橋栄昇さん

放送研究会 全国5部門で受賞

12月2日～6日に京都市生涯学習センターで開催された第40回NHK全国大学放送コンテストで、本学放送研究会が、全6部門のうち5部門で受賞した。放送研究会として3年連続で受賞している。

作品は放送研究会のYouTubeチャンネルで

放送研究会のメンバー

研究からボトルへ

地域連携の「学園オリジナルワイン」3種 2023年度も完成

学園オリジナルワインは、工学部生命工学科が八剣山ワイナリー（亀和田俊一社長・札幌市南区）と連携し進めているワインプロジェクトの研究成果として、2018年から毎年醸造、販売されている。2023年度は、スパークリングロゼワインが2024年2月に、赤ワインと白ワインが同年3月にそれぞれ完成し、学園オリジナルワイン3種が揃った。

これらのワインの醸造には、生命工学科新沼協研究室の学生の研究により八剣山ワイナリーのブドウ畑から独自に単離・選抜されたワイン醸造好適酵母が使用されている。生命工学の知識を活用し、北海道の豊かな大地から単離したワイン醸造好適酵母を使用することで、土地の個性（テロワール）を活かしたワインを目指した。研究に携わった学生らは「自分達の研究から生まれた酵母が実際にワイン醸造に使用され、とても誇りに思います。大学で得た知識や技術が、直接地域社会に貢献できることを実感できました。たくさんの方に飲んでいただけたら嬉しいです」と話す。

学園オリジナルワインは、八剣山キッチン&マルシェほか市内酒販店で購入可能。

2023年度学園オリジナルワイン。左から赤（720ml、2750円税込）、白（720ml、2750円税込）、スパークリングロゼ（720ml、2970円税込）。

私の学び

人文学部日本文化学科3年
伊原 綾花（いはら あやか）

自分の目で現地を確かめる

私は、外務省が促進するJENESYS対日理解促進交流プログラムに応募し、今年の春休みにマニラへ7日間派遣して頂きました。フィリピンを選んだ理由は、派遣テーマと対象者が日本語教育や外国人と交流をすることが好きな私にぴったりであったことと、国内の国籍別日本語学習者数が常に上位であるフィリピンに行ってみたいと思ったからです。

ここで皆さんは、フィリピンと聞いて何を思い浮かべるでしょうか。私は参加する前まで特にフィリピンに関心がなく、マイナスなイメージばかりありました。例えば、治安が悪い、衛生環境が悪いなどです。事前学習、現地で滞在、訪問地ごとの聴講や現地の人々との交流を通して、己の無知と無関心による偏見の怖さを知りました。偏見が心の中にあるままだと、関わると表面上はよくても、お互い助け合いたいと思うほどの関係を築くことは難しいです。だから日本の移民問題も消えないのだと思います。現地に赴き、自分の目で確かめることがいかに大事かということを学びました。

SNSやプレゼンで互いの国の魅力発信、帰国後に企画したオンライン交流会など、新たに関わる人を増やすことのできた取り組みは小さいながらも確実に日本好き、フィリピン好きを増やせたと思います。異文化を持つ国民同士が信頼関係を築けるよう、これからも私にできることをしていきたいです。

ホストファミリーと（右から2番目が筆者）

困ったときは、ひとりで悩まず 学生カウンセリング室へ!!

北海学園大学「学生カウンセリング室」のカウンセラー

田中 勝則（たなか まさのり）　渡邊 良平（わたなべ りょうへい）　小幡 昌志（おばた まさし）　黒澤 祐莉（くろさわ ゆうり）

新入生の皆さま、そして保護者の皆さまにおかれましてはご入学を心よりお慶び申し上げます。また、在学生の皆さんにおかれましては新年度いかがお過ごしでしょうか。

学生カウンセリング室では学生の皆さんのこころや発達の問題に関連する学生生活上の多様なニーズに対する支援を行っています。近年では人間関係や進路に関する悩み、勉強面や日常生活で計画を立てることの苦手さなどの相談が増えています。もちろん、それ以外の様々な悩みや困りごとへの対応も行っています。

必要に応じて、学内外の様々な関係機関と連携しながら学生の皆さんにとっての最善の利益となるような対応を心がけています。

学生生活に関する悩みや困りごとがある場合には公認心理師や臨床心理士の資格を持ったカウンセラーが対応いたしますので、下記の連絡先までご連絡ください。

申込方法：お電話 011－876－9939、メール hgukokoro@hgu.jp
受付時間：平日 10：00 ～ 12：40、13：40 ～ 17：00
詳しい情報は「北海学園大学 こころの相談」で検索

キャリア支援センターINFORMATION ＜2024年就職状況＞

就職活動に向けた今からできること

2024年3月卒業生の就職状況がまとまりました。内定率は表1のとおりで、昨年を上回る結果となりました。コロナ禍明けにおける企業側の説明会ならびに採用活動は、対面とオンラインでの併用による選考が主体となり、学生はそれぞれの選考に対応するべき対策を十分な時間をかけて行いました。

2024年3月卒業生に行ったアンケート結果によりますと、進路決定先に「満足」、「どちらかというと満足」と回答した学生の割合が9割以上となり、多くの学生が業界分析・企業分析を行ったうえでエントリーシートの作成、面接対策を行った結果となっております。一方で『もう一度就職活動をするとしたら、最も力を入れようと思うこと』の自由記述欄には、「自己分析を始めるのが遅くて、大変だった」、「GPAなどの成績が面接の際に指摘された」、「自分が何を重視するのか、話に一貫性がなくなり自分を100%アピールすることが難しい」といった回答が寄せられました。このような回答への対策として、1年生から普段の生活における講義の受け方やサークル活動、アルバイトなどを通じて自分の将来像を見据えた行動を心がけるようにしてみましょう。就職活動は3年生から本格化しますが、普段から自身の行動や体験を振り返っておくと、焦ることなく就職対策に入ることができます。大学生活ではより多くの経験を積んでいきましょう。

また、アンケートにおける『企業・官庁等への受験申込（エントリー）はいつから始めましたか?』の回答において、3年生で開始した学生の割合は7割で、『最初に内定（内々定）・合格を取得したのはいつですか?』の回答では、4年生4月の時点で3割を超えるなど、就職活動の早期化が進んでいる傾向となっております。企業の声として「売り手市場における優秀な人材の早期確保」の目標があり、一方で学生は「早期内定により安心感が生まれ、学業に集中できる」ことにより利害関係が一致しているため、近年の少子化も伴って、しばらくはこの現象は続くものと思われます。

本学は就職対策として、民間・公務員志望者向けにそれぞれの就職ガイダンスを複数回実施し、自己分析セミナー、面接セミナーにおける個別指導、キャリア支援センター職員による個別相談を行っております。学生の皆様には学年に関係なくキャリア支援センターを利用して、自分の「キャリアデザイン」の設計を考えながら就職活動を行ってほしいと思います。

表1　2024年3月卒業生就職状況

	学科	内定率(%) 男	女	計
1部	経済	89.6	96.6	91.0
	地域経済	93.9	97.4	95.2
	経営	94.9	95.7	95.1
	経営情報	95.3	92.6	94.1
	法律	90.5	94.9	92.2
	政治	92.8	87.9	91.3
1部合計	男/92.6、女/93.8、計/93.0			

	学科	内定率(%) 男	女	計
1部	日本文化	80.7	100.0	92.4
	英米文化	91.9	84.1	87.7
	社会環境工	92.7	100.0	93.1
	建築	96.2	95.0	95.9
	電子情報工	95.0	100.0	95.7
	生命工	94.7	91.7	94.0

	学科	内定率(%) 男	女	計
2部	経済	83.0	100.0	85.7
	地域経済	83.8	77.8	82.6
	経営	83.6	90.3	85.9
	法律	92.0	83.3	89.7
	政治	91.7	75.0	88.3
	日本文化	81.8	80.0	81.1
	英米文化	87.5	55.6	76.0
2部合計		86.5	82.5	85.4

1部・2部合計　男/90.9、女/91.4、計/91.0

表2　2024年3月卒業生 業種別就職先

公務員・国立大学法人	国家公務員一般職
	国税専門官
	労働基準監督官
	財務専門官
	裁判所職員（一般職）
	自衛隊幹部候補生
	北海道職員
	北海道警察
	札幌市役所（一般事務・他）
	札幌市消防
	道内市役所
	道内町村
	警視庁警察官
	東京都特別区
	国立大学法人等職員
	独立行政法人国立病院機構
	独立行政法人日本学生支援機構
	北海道内外教員
金融	道内信用金庫
	北海道銀行
	北洋銀行
	北陸銀行
	ゆうちょ銀行（日本郵政グループ）
	北海道労働金庫
	あいおいニッセイ同和損害保険
	第一生命保険
	日本生命保険相互会社
	ＳＯＭＰＯひまわり生命保険
	東京海上日動火災保険
	富国生命保険相互会社
	かんぽ生命保険
	共栄火災海上保険
	社会保険診療報酬支払基金
	ソニー損害保険
	損害保険ジャパン
	ほくよう保険サービス
	北海道国民健康保険団体連合会
	北海道リース
	カワムラ
建設・不動産	住友不動産販売
	岩田地崎建設
	東急リバブル
	ドーコン
	大林組
	伊藤組土建
	大成建設
	ドーピー建設工業
	中山組
	宮坂建設工業
	アサヒ
	エイコー技研
	鹿島建設
	アイエイ研究所
建設・不動産	川田工業
	熊谷組
	桂和商事
	こぶし建設
	さくら構造
	札幌インスペクション
	三共電気工業
	三洋工業北海道システム
	三和シヤッター工業
	清水建設
	住研ハウス
	常口アトム
	昭和木材
	創建社
	竹中土木
	辻野建設工業
	土屋ホーム
	テスク
	東神開発
	東洋建設
	戸田建設
	西江建設
	日本建設
	日本国土開発
	丸彦渡辺建設
	みずほ不動産販売
	三菱地所ハウスネット
	明和地所
運輸・通信・出版・エネルギー	ＡＮＡ新千歳空港
	北海道旅客鉄道
	北海道電力
	互信ホールディングス
	新日本海フェリー
	日本通運
	岩瀬運輸機工
	ＡＩＲＤＯ
	ＮＴＴアノードエナジー
	エムケイホールディングス
	キャセイパシフィックエアウェイズリミテッド
	佐世保タクシー
	ＪＡＬスカイ札幌
	新千歳空港サービス
	日本梱包運輸倉庫
	日本航空
	北海道中央バス
	ロジスティード北日本
	ｗｏｒｌｄ’ｓ　ｅｎｄ
	北海道アルバイト情報社
	北日本広告社
	リクルート北海道じゃらん
	電通デジタルアンカー
	電通北海道
	ＮＴＴ東日本ー北海道
卸小売・製造	ＮＴＴデータＭＳＥ
	つうけん
	アイングループ
	イオン北海道
	ニトリ
	アインファーマシーズ
	サッポロドラッグストアー
	道内トヨタ系ディーラー
	セコマ
	ツルハ
	ヨドバシカメラ
	スズキ自販北海道
	竹山
	日糧製パン
	はなまる
	ほくやく
	北海道コンフェクトグループ
	北海道日産自動車
	ロイズコンフェクト
	あきんどスシロー
	アレフ
	イーストン
	北央商事
	きのとや
	グリーンハウス
	ゲンキー
	コクヨ北海道販売
	ココカラファインヘルスケア
	コスモス薬品
	札幌アポロ
	サンセリテ札幌
	サンマルコ食品
	ＪＲ北海道フレッシュキヨスク
	シュクレイ
	シングスアンドクラフト
	ジンズ
	そごう・西武
	ダイイチ
	ダイゼン
	大東エンタープライズ
	東光ストア
	トモズ
	なか卯
	ナラサキ産業
	日清医療食品
	日本甜菜製糖
	日本食研ホールディングス
	日本マクドナルド
	ハードオフコーポレーション
	ビームス
	ビックカメラ
	ファミリーマート
	フォーシーズ
卸小売・製造	福原
	プリデストンリテールジャパン
	フレスカ
	プレナス
	ホクレン商事
	北海道ジーエス・ユアササービス
	北海道スバル
	北海道糖業
	ホンダ四輪販売北海道
	まいばすけっと
	マツオインターナショナル
	松屋フーズ
	丸亀
	ミサワ
	ムトウ
	もりもと
	ヤマダデンキ
	よつ葉乳業
	ライフコーポレーション
	ラルズ
	柳月
	ローソン
	六花亭製菓
	生活協同組合コープさっぽろ
	良品計画
サービス・団体	ホクレン農業協同組合連合会
	道内農業協同組合
	北海道厚生農業協同組合連合会
	北海道農業共済組合
	石狩北部地区消防事務組合
	恵庭まちづくり協同組合
	全国労働者共済生活協同組合連合会
	北海道漁業協同組合連合会
	北海道市町村職員共済組合
	北海道信用農業協同組合連合会
	学校法人北海学園
	学校法人日本医療大学
	学校法人希望学園
	学校法人池上学園
	学校法人電子開発学園
	医療法人渓仁会
	税理士法人セントラル
	税理士法人フューチャーコンサルティング
	税理士法人エンカレッジ
	税理士法人すずらん総合マネジメント
	税理士法人ジャパンタックス申告会
	公益財団法人アイヌ民族文化財団
	公益財団法人北海道対がん協会
	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会
	公益財団法人鉄道弘済会
	ＪＡＦ（一般社団法人日本自動車連盟）
	ふたば税理士法人
	社会医療法人母恋
サービス・団体	一般社団法人北海道総合研究調査会
	税理士法人山田アンドパートナーズ
	リーガライト行政書士法人
	エイチ・アイ・エス
	ＪＴＢ
	日本旅行北海道
	名鉄観光サービス
	星野リゾート・トマム
	加森観光本社
	トーホウリゾート
	マイスタイズ・ホテル・マネジメント
情報処理・ＩＴ関連	トランスコスモス
	アイティ・コミュニケーションズ
	ＳＣＳＫ北海道
	パーソルプロセス&テクノロジー
	エイチ・アイ・ディ
	エスイーシー
	レバレジーズ
	大塚商会
	コンピューターサイエンス
	中央システム
	ドコモＣＳ北海道
	日本アイ・ビー・エムデジタルサービス
	日本ビジネスシステムズ
	ファイバーゲート
	マンパワーグループ
	アイ・テイ・エス
	アイ・ティー・エックス
	Ｉ・ＴＥＣソリューションズ
	アルテニカ
	アレックスマネジメント
	イーエフユーアドウィス
	インテック
	ＩＣ
	ＷｉｎＧｒｏｗ
	内田洋行ＩＴソリューションズ
	ＲＯＢＯＴ　ＰＡＹＭＥＮＴ
	キーウェアソリューションズ
	クレスコ
	恵和ビジネス
	Ｃｏｄｅｍｉｎｇｌｅ
	コスメディア
	システムマネージメント
	セラク
	ダイアモンドヘッド
	ダイナックス
	鉄道情報システム
	デル・テクノロジーズ
	ニッセイ情報テクノロジー
	富士フイルムビジネスイノベーションジャパン
	北海道総合通信網
	ヤマトシステム開発

令和5年度 卒業証書・学位記授与式

祝辞を述べた栗山英樹特任教授

卒業証書・学位記の授与

令和5年度卒業証書・学位記授与式が3月20日、北海道立総合体育センター「北海きたえーる」にて執り行われた（9月期は令和5年9月30日挙行）。昨年までは新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から規模を縮小していたが、5年ぶりに保護者の方々やご来賓を迎えて従来通りに実施された。

来賓からの祝辞として、本学園特任教授の栗山英樹氏が登壇し、「人は能力よりも、自分のことを信じられるかどうか、それがすべてだと思います。挑み続けてください。自分を信じてやり続ければ必ず道は見えていく」とエールを送った。

令和5年度　卒業生数／修士・博甲・博乙・法務博数　（単位／人）

学部	学科		令和5年度卒業生 9月期	合計	累計
経済	1部	経済学科	140	10	150	20,783
		地域経済学科	110	－	110	2,557
		経営学科	－	－	－	8,766
	2部	経済学科	52	15	67	8,006
		地域経済学科	45	7	52	846
		経営学科	－	－	－	3,291
経営	1部	経営学科	153	1	154	3,117
		経営情報学科	124	－	124	2,604
	2部	経営学科	93	18	111	1,765
法	1部	法律学科	114	3	117	12,895
		政治学科	110	1	111	2,641
	2部	法律学科	69	15	84	5,951
		政治学科	65	5	70	1,154
人文	1部	日本文化学科	84	6	90	2,714
		英米文化学科	91	4	95	2,636
	2部	日本文化学科	42	5	47	1,098
		英米文化学科	31	1	32	792
工		社会環境工学科	56	4	60	4,575
		建築学科	79	2	81	4,888
		電子情報工学科	51	2	53	3,008
		生命工学科	62	－	62	495
1部計			1,174	33	1,207	71,679
2部計			397	66	463	22,903
大学計			1,571	99	1,670	94,582

大学院	研究科		令和5年度修了生 9月期	合計	累計
	経済学研究科	（博士甲）	－	－	0	13
		（博士乙）	1	－	1	2
		（修　士）	－	－	0	209
	経営学研究科	（博士甲）	－	－	0	15
		（博士乙）	－	－	0	5
		（修　士）	－	－	0	124
	法学研究科	（法・博士甲）	1	－	1	10
		（政・博士甲）	1	－	1	2
		（博士乙）	－	－	0	4
		（法・修士）	－	1	1	108
		（政・修士）	－	－	0	28
	文学研究科	（日・博士甲）	－	－	0	4
		（英・博士甲）	－	－	0	1
		（博士乙）	－	－	0	7
		（日・修士）	－	1	1	105
		（英・修士）	－	－	0	30
	工学研究科	（建・博士甲）	－	－	0	7
		（電・博士甲）	－	－	0	7
		（生・博士甲）	1	－	1	2
		（建・修士）	1	－	1	154
		（電・修士）	－	－	0	47
		（生・修士）	3	－	3	13
	法務研究科（法務博士）		1	－	1	156
大学院計			9	2	11	1,053
大学・大学院計			1,580	101	1,681	95,635

学長室訪問

▽3月14日　株式会社アイワード 代表取締役社長 奥山敏康氏、馬場康広氏
▽3月27日　サッカー部OB会会長 阿波昭則氏
▽4月4日　岩田地崎建設株式会社 取締役専務執行委員 建築本部長 佐藤護氏、第一営業部長 木村文彦氏、第二営業部営業課主任 東間勇貴氏、総務部広報課 上田尚子氏
▽4月5日　レスプリッジ大学交換教員 シュルツ アーラン氏 着任挨拶
▽4月12日　藤女子大学学長 渡邊頼純氏、事務局長 柳本睦子氏
▽4月16日　日本経済新聞社 札幌支社長 髙野眞純氏、映像戦略本部統括付 下原口徹氏
▽5月9日　北星学園大学学長 中村和彦氏、事務局長 山本一博氏

2024年度 進学相談会

各会場とも入場無料、事前の申込みは不要です。

道内会場

開催月日	場所	会場名
6月18日(火)	札幌	プレミアホテル-TSUBAKI-札幌
7月18日(木)	札幌	アクセスサッポロ
9月11日(水)	旭川	旭川地場産業振興センター
9月13日(金)	倶知安	倶知安総合体育館
10月 9日(水)	石狩	花川コミュニティーセンター
10月 9日(水)	札幌	プレミアホテル-TSUBAKI-札幌
10月16日(水)	釧路	釧路市観光国際交流センター
10月21日(月)	石狩	ガトーキングダムサッポロ

道外会場

開催月日	場所	会場名
9月11日(水)	八戸	八戸プラザアーバンホール
10月26日(土)	東京	ベルサール渋谷ガーデン

※参加前に必ず最新情報を確認してください。

OPEN CAMPUS 2024

春のオープンキャンパス

6/23(日)　豊平キャンパス、山鼻キャンパス
10:00～16:30
【申込み開始：5/24（金）10:00～】

夏のオープンキャンパス

8/9(金)　豊平キャンパス、山鼻キャンパス
10:00～16:30
【申込み開始：7/9（火）10:00～】

8/10(土)　豊平キャンパス、山鼻キャンパス
10:00～16:30
【申込み開始：7/9（火）10:00～】

秋のオープンキャンパス

9/29(日)　豊平キャンパス、山鼻キャンパス
10:00～16:30
【申込み開始：8/30（金）10:00～】

【開催内容】
豊平キャンパス：学部別イベント／入試説明会、保護者向け説明会、在学生イベント、2部イベント、学内ツアー、個別相談会、パネル展、サークルイベントなど
山鼻キャンパス：学科別説明会、学内体験ツアー、ショールーム、大学・入試説明会など

申込必須！本学公式LINEよりお申込みください。

イベント及びお申込みの詳細については本学HPをご確認ください。

2024年度 ミニオープンキャンパス

北見	7/20(土)	北見市民会館
函館	7/20(土)	Ｇスクエア
旭川	7/21(日)	旭川北洋ビル
室蘭	7/21(日)	生涯学習センター きらん
釧路	7/27(土)	釧路市生涯学習センター
帯広	7/28(日)	とかちプラザ

全会場 11:00－17:00

【開催内容】大学説明＆保護者向け説明、在学生オンライン TALK LIVE、入試制度説明、個別相談会、パネル展、資料配布コーナー

申込必須！本学公式LINEよりお申込みください。

イベント及びお申込みの詳細については本学HPをご確認ください。

2024年度 大学院進学説明会

経済学研究科・経営学研究科・法学研究科・文学研究科

第1回　7/6(土)　13:00～14:30
第2回　12/7(土)　豊平キャンパス8号館

工学研究科

第1回　7/12(金)　14:30～15:30
第2回　12/6(金)　山鼻キャンパス3号館2階

【開催内容】各研究科個別相談会、奨学金説明会・個別相談、施設見学、社会人特例・長期履修制度説明、就職情報の提供

2025年度 北海学園大学 編入学・転入学試験日程

一般編入学・転入学試験　推薦編入学試験

学部	学科	募集年次	試験	期	出願期間	試験日
経済学部	1部 経済学科・地域経済学科 2部 経済学科・地域経済学科	3年次	一般・推薦		2024年 10月 1日(火) ～ 10月11日(金)	11月 2日(土)
経営学部	1部 経営学科・経営情報学科 2部 経営学科	3年次	一般・推薦	Ⅰ期	2024年 10月 7日(月) ～ 10月18日(金)	11月16日(土)
		3年次	一般	Ⅱ期	2025年 1月14日(火) ～ 1月24日(金)	2月22日(土)
法学部	1部 法律学科・政治学科 2部 法律学科・政治学科	3年次	一般・推薦	Ⅰ期	2024年 9月12日(木) ～ 9月19日(木)	10月 5日(土)
		2･3年次	一般・推薦	Ⅱ期	2025年 1月 9日(木) ～ 1月15日(水)	2月14日(金)
人文学部	1部 日本文化学科・英米文化学科 2部 日本文化学科・英米文化学科	3年次	一般	Ⅰ期	2024年 9月27日(金) ～ 10月 4日(金)	10月26日(土)
				Ⅱ期	2025年 1月14日(火) ～ 1月24日(金)	2月25日(火)
工学部	社会環境工学科（社会環境コース・環境情報コース） 建築学科 電子情報工学科 生命工学科	3年次	一般	Ⅰ期	2024年 7月 9日(火) ～ 7月12日(金)	9月 3日(火)
				Ⅱ期	2025年 1月14日(火) ～ 1月17日(金)	2月25日(火)

社会人特別編入学・転入学試験

学部	学科	期	出願期間	試験日
経済学部	1部 経済学科・地域経済学科 2部 経済学科・地域経済学科		2024年 10月 1日(火) ～ 10月11日(金)	11月 2日(土)
経営学部	2部 経営学科	Ⅰ期	2024年 10月 7日(月) ～ 10月18日(金)	11月16日(土)
		Ⅱ期	2025年 1月14日(火) ～ 1月24日(金)	2月22日(土)

2025年度 北海学園大学大学院 入試日程

課程	入試	研究科名	出願期間	試験日
修士	第Ⅰ期	経済学研究科	2024年 8月26日(月)～ 9月10日(火)	10月 2日(水)
		経営学研究科		10月 5日(土)
		法学研究科		10月 2日(水)
		文学研究科		10月19日(土)
		工学研究科		10月15日(火)
	第Ⅱ期	経済学研究科	2025年 1月 9日(木)～ 1月16日(木)	2月15日(土)
		経営学研究科		2月15日(土)
		法学研究科		2月15日(土)
		文学研究科		2月15日(土)
		工学研究科		2月18日(火)

課程	研究科名	出願期間	試験日
博士（後期）	経済学研究科	2025年 1月 9日(木)～ 1月16日(木)	2月15日(土)
	経営学研究科		2月15日(土)
	法学研究科		2月15日(土)
	文学研究科		2月15日(土)
	工学研究科		2月18日(火)

※詳細は募集要項でご確認ください。